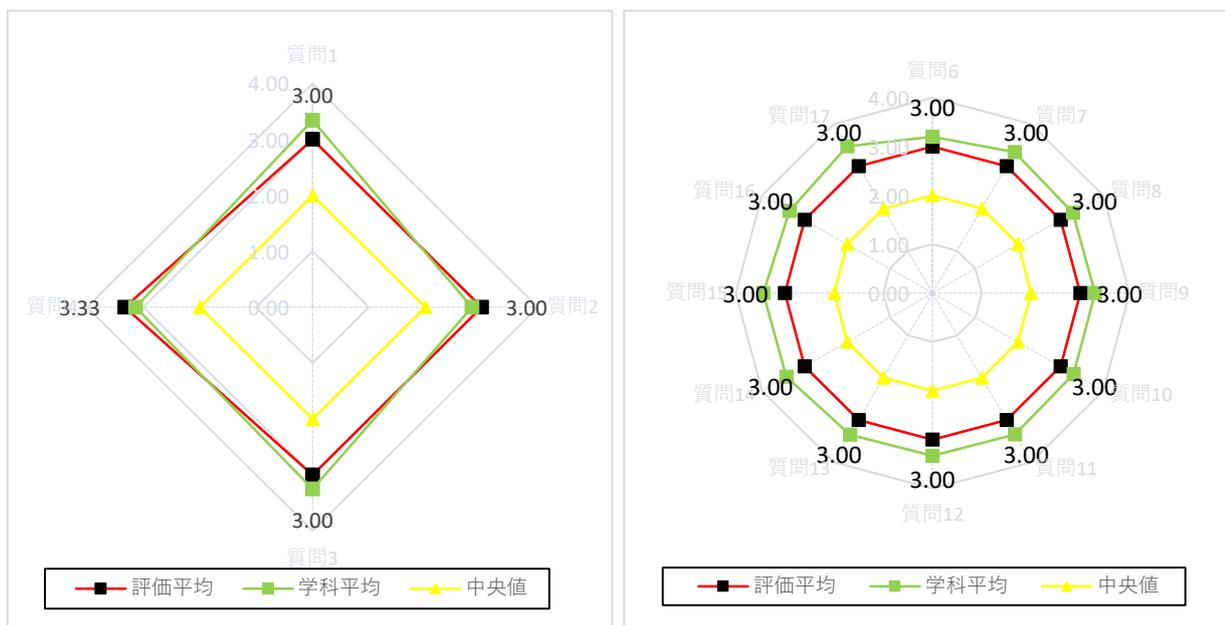


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		基礎演習あすなろう	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

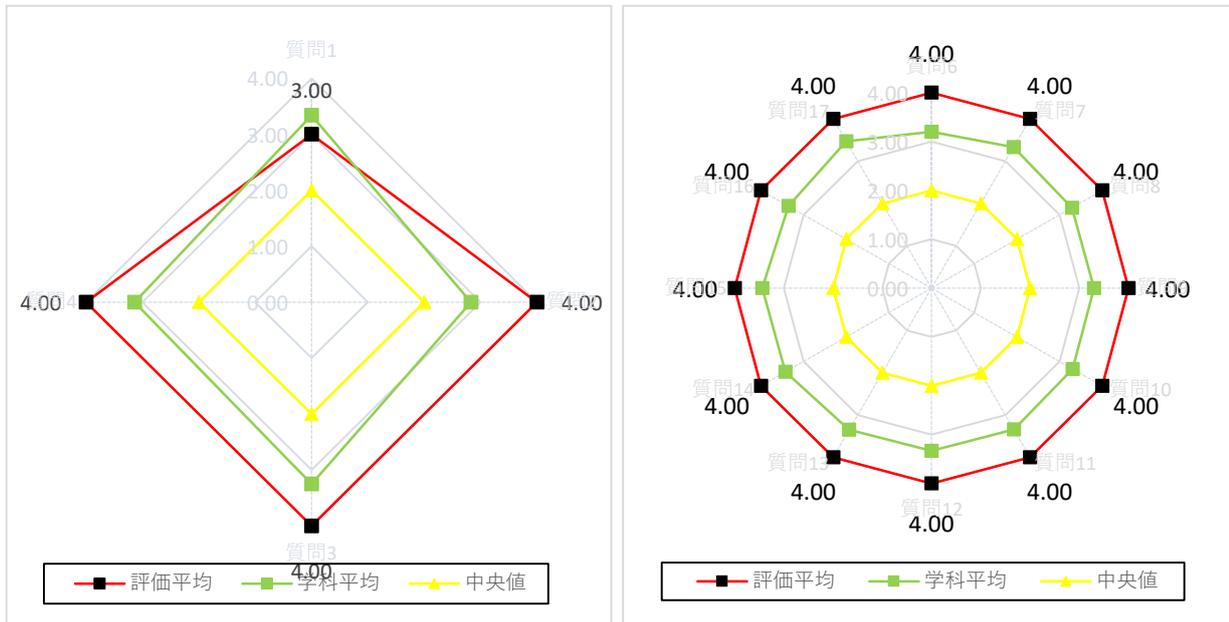
- ・ 学科平均との比較：学科平均を下回っている。初年時教育科目として位置づけられ、西九州大学の歴史、神埼の歴史、図書館の利用方法、レポート作成、リメディアル教育など大学での教育・生活の基礎を学ぶとあって、各分野の担当講師が講義を実施する形態で有り、指導教員の介入が不足していた。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫と反省点：リメディアル教育において、確認試験結果が低い学生に対して、学習資料を準備し自学を勧めているが、参加状況が悪かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 基礎演習あすなろうについては、リメディアル教育が充実するよう取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		基礎演習あすなろう	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

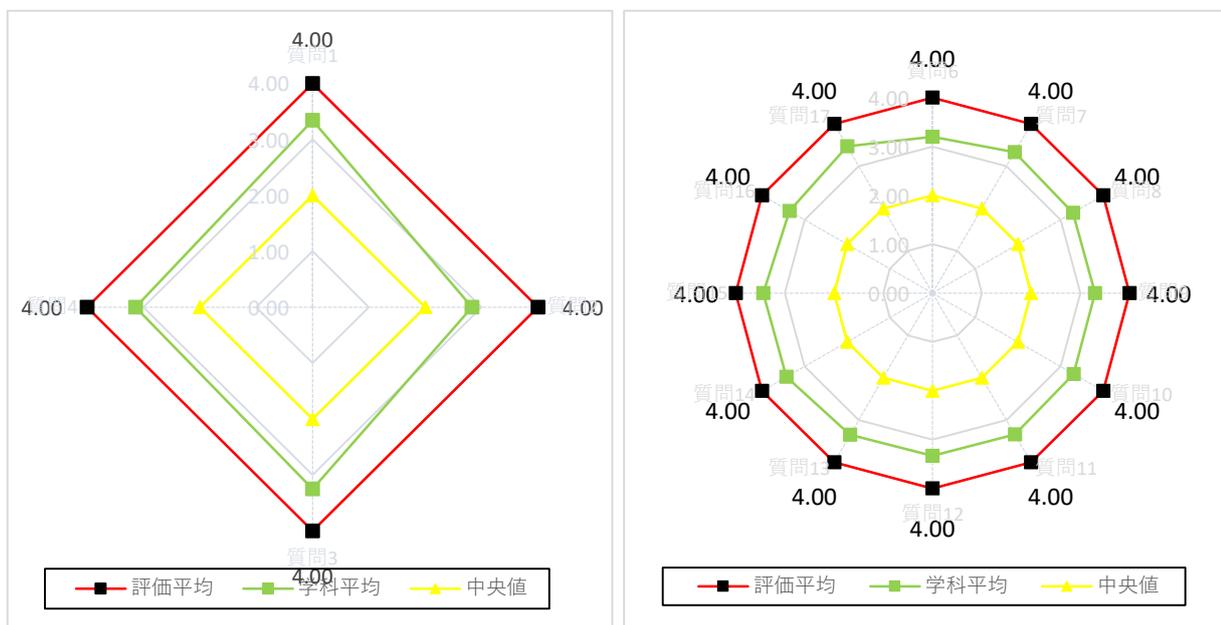
学生の欠席 (3.0) 以外はすべて4.0であり、学科平均を大きく上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の出席を促す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		基礎演習あすなろう	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

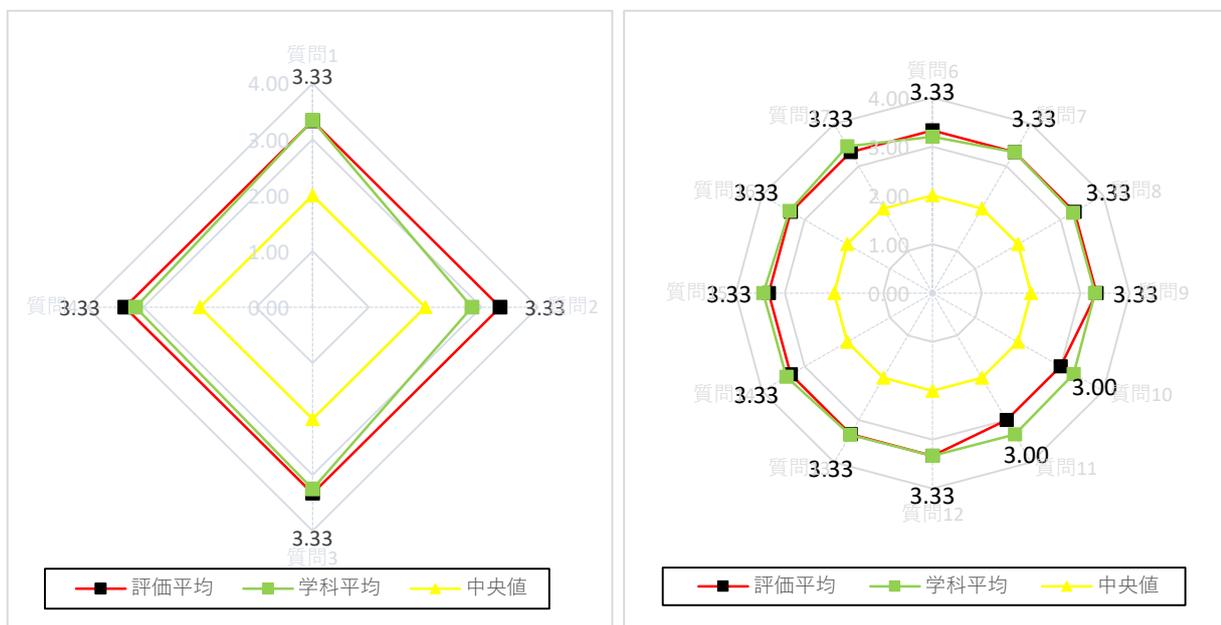
この科目は、必修科目として開講している。
 今回の評価結果からは、概ね良い評価を頂いていると認識している。この科目は、私の専門外の科目であるため、常に試行錯誤を行いながら実施している。今後も試行錯誤し、学生とともに良い講義を実施していきたいと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度については、この科目を担当することはないが、この科目で得た経験を今後活かしていきたいと考える。特にこの科目は、学生とコミュニケーションをとりながら実施する科目であるため、その経験も今後活かしていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		基礎演習あすなろう	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

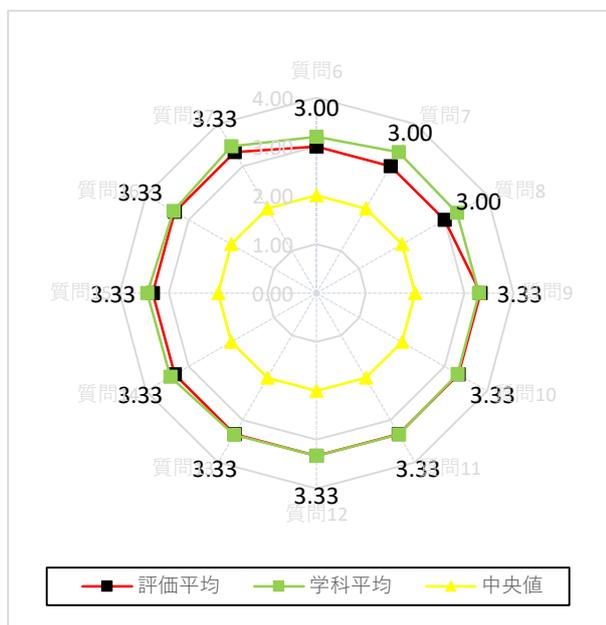
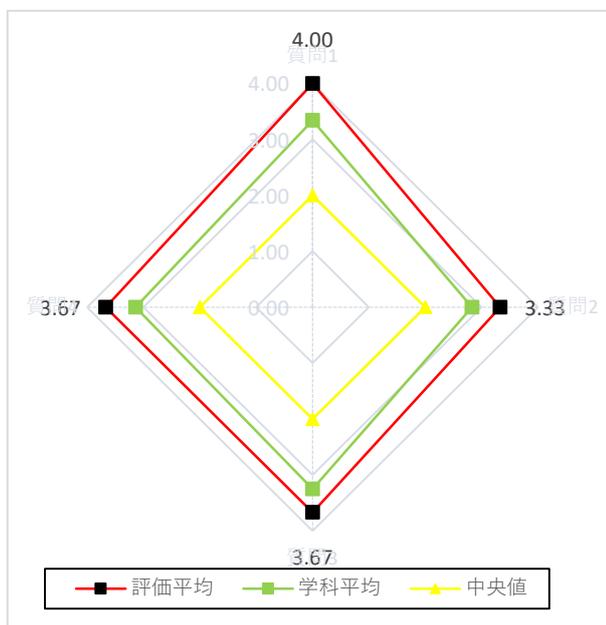
対象学生数が少なく又回答者もわずかであるが、全ての項目について3.0以上の評価を得ている。その中でも質問1及び質問2は、4の評価と2の評価へ分散している。また、質問10と質問11も評価の2、3、4とばらつきがある。その他の質問については、3または4評価であったことから、総合してほぼ良好な状況であるものと考えられる。なお、自由記述はなかった。この授業は、学部合同や学科別の授業展開も多くゼミ別における授業が少ないために、個別の授業改善が難しい教科であるが、今回の評価アンケートの結果を基に少しでもよりよい授業となるよう改善努力をしていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、新カリキュラムで教科目名が「あすなろう I 基礎」となるが、内容としては社会人基礎力等を中心に展開される。そのため、本年度同様の学部合同や学科別で展開することが多くなるが、ゼミ別の授業では今回の評価結果を活かして興味や関心が持てる授業内容の改善や学生とのやり取りも多く取り入れた授業方法を考え、取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう体験 I (基礎)	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

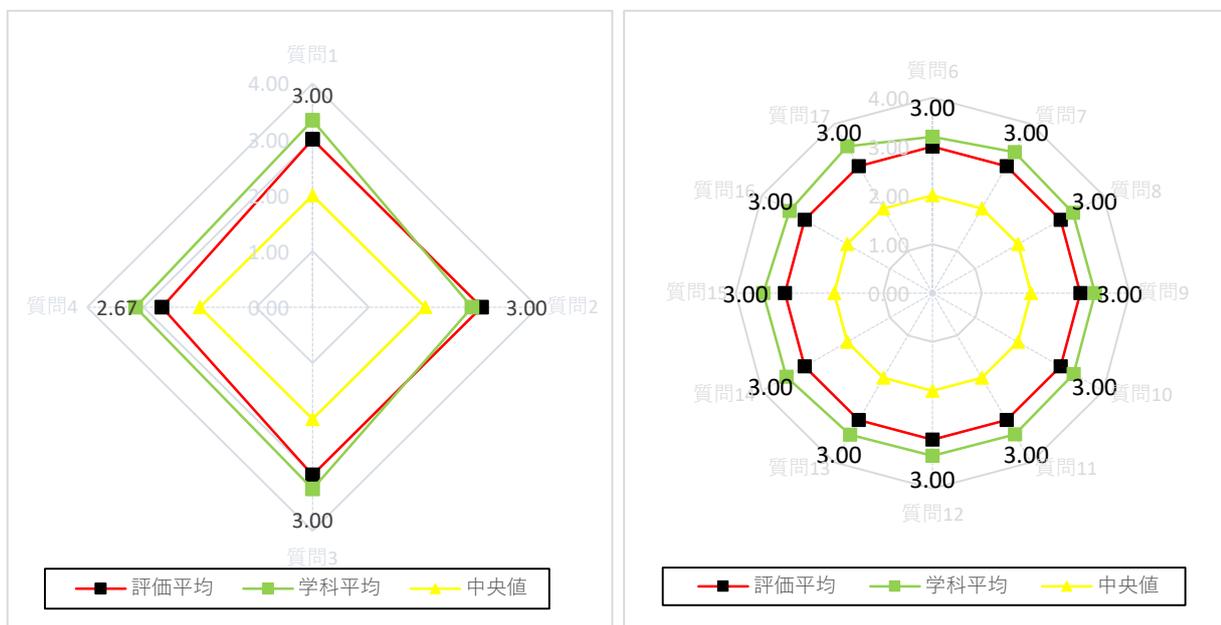
「基礎演習あすなろう」同様に対象学生が少なく又回答者も3名と少ない状況であるが、全ての質問項目において3.0以上の評価を得ている。ただ、質問1、質問6、質問7、質問8で2の評価もあり、シラバスを基に到達目標の説明や興味関心が持てる授業の工夫等の改善が今後必要と考えられる。学科の先生方とも今後の対応等について、検討が必要である。ボランティア活動においては個々の学生が主体になって取り組み、その報告をポータルサイト上で確認するだけで、十分なコメントができなかったことを反省している。

(3) 次年度に向けての取り組み

新カリキュラムでこの授業内容が今後どのように展開するのか理解できていないため具体的な改善の取り組みが未定であるものの、今回の評価結果を基に学生が理解しやすく役立つ授業の取り組みを考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう体験 I (基礎)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

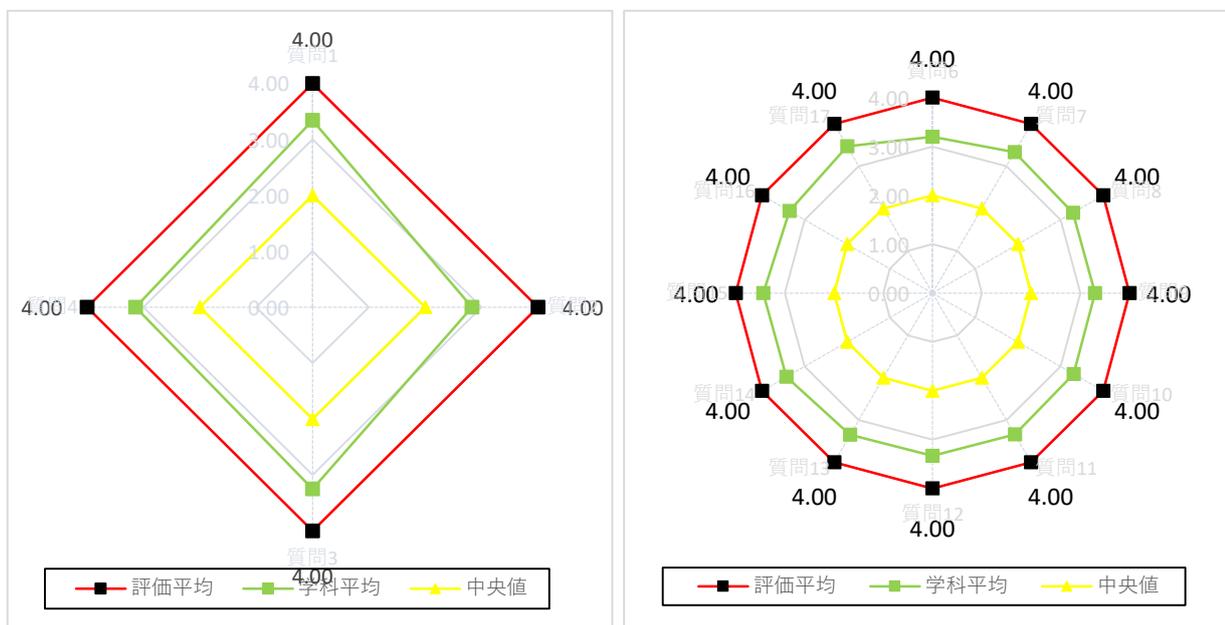
- ・ 学科平均との比較：学科平均を下回っている。社会人醸成のための科目であり、学生自身自己の弱点と向かい合う時間と捉えて実施したが学生との意志疎通の不足であったことは否めない。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫と反省点：自己の考えをまとめ、発表する機会を増やすことも必要であるが、時間的な制限もあり工夫したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 社会人にとって必要な資質である、コミュニケーション力、創造力、批判力、リーダーシップの醸成に繋がるアクティブ・ラーニングを併用したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう体験 I (基礎)	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

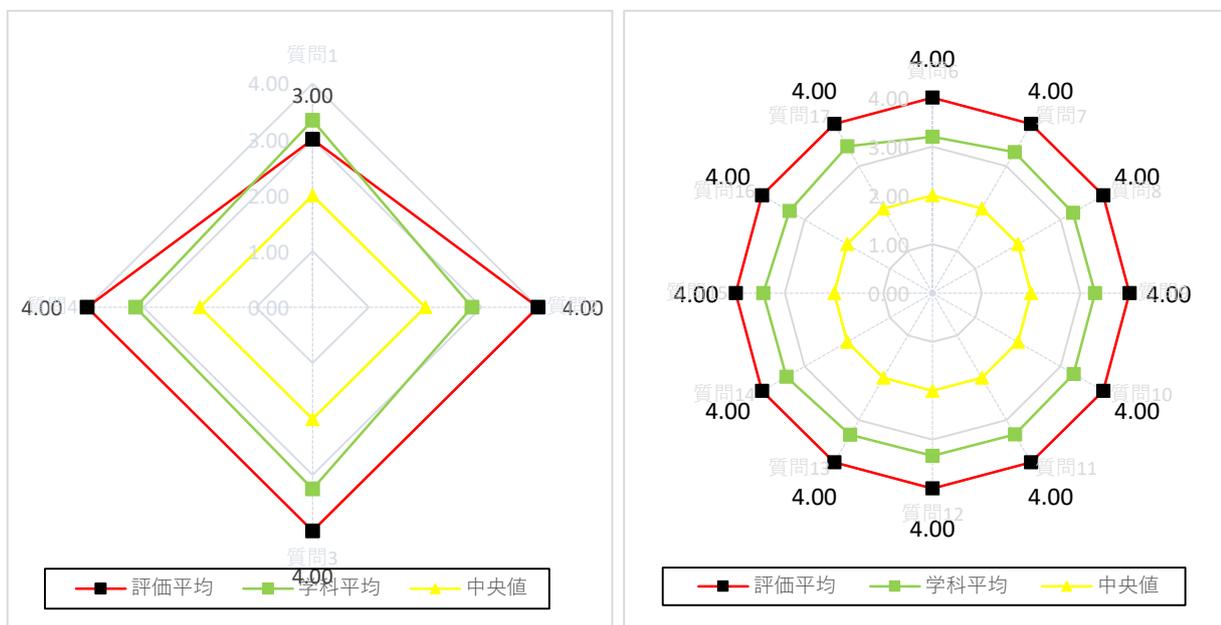
この科目は、必修科目として実施している。
 今回の調査では、概ね良い評価を頂いていると考える。この科目は、学生が主体的に実施することを求めた科目であるため、今回の高評価は、学生が主体的に頑張った事が反映されているのではないかと考える。今後も学生が主体的に関わるような講義が実施できるように努力することが求められていると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は、この科目を担当することはないが、この科目で経験したことを他の科目でも活かしていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう体験 I (基礎)	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

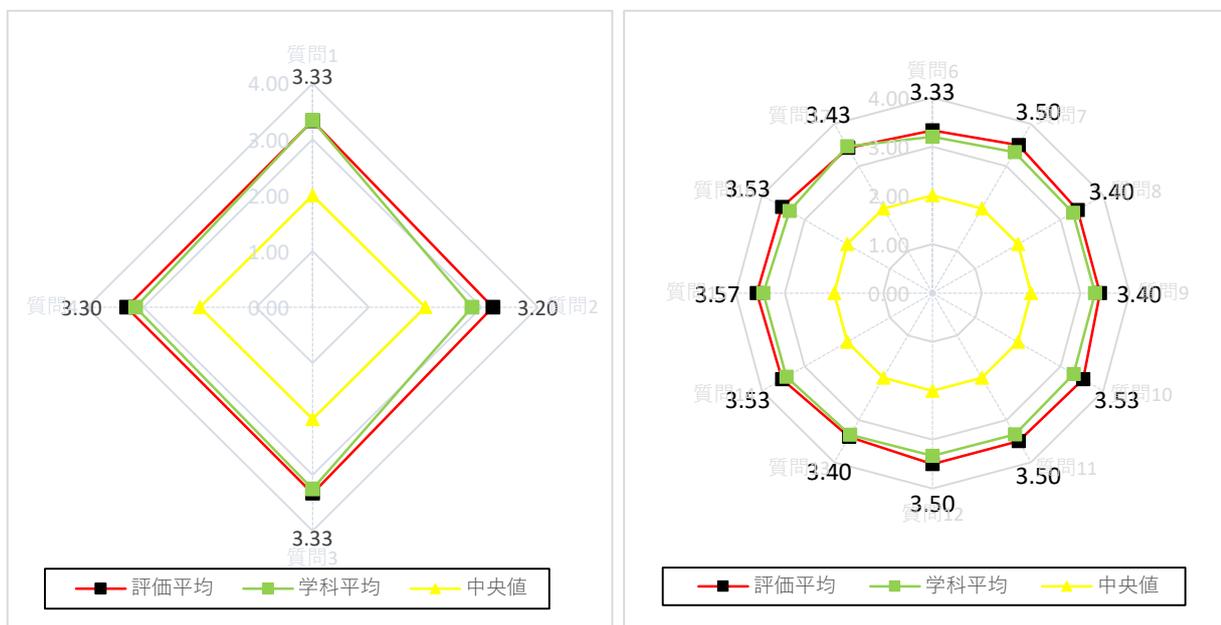
学生の取り組み状況 (3.0) 以外の項目はすべて4.0であり、学科平均を上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

体験への取り組みを早期にするよう促す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		情報処理基礎	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この科目は、1年生の必修科目として通年で実施している。

結果からは、概ね学科平均と同程度の評価を頂いていることがわかる。そんな中、質問1、質問17が学科平均を下回る評価となっている。

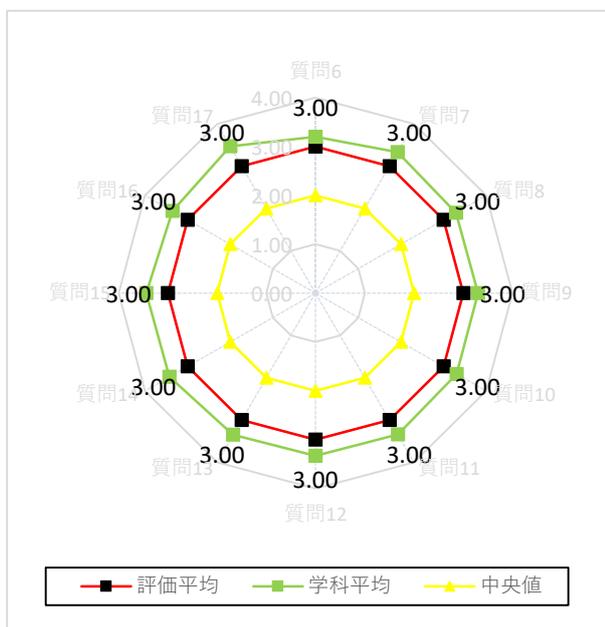
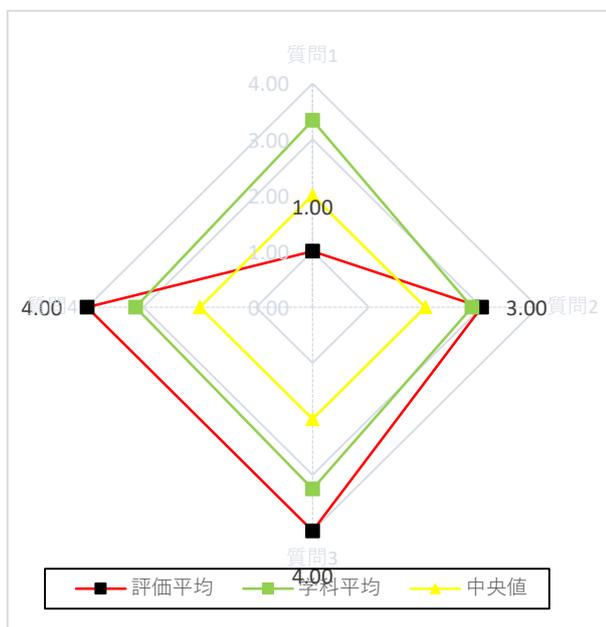
質問1については、欠席することでの不利益について、注意を行っていなかったためだと考える。欠席することで、講義内容が把握できないなどの具体的な不利益について話す必要があると考える。質問17については、教員自身が熱心さを失ったつもりはないが、学生にとってはそう捉えてしまう場面があったのだと考えられる。今後気を付けていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には、今年度と同様の取り組みを実施予定である。その中でも上記の評価より、欠席をしないための注意喚起等を繰り返し行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

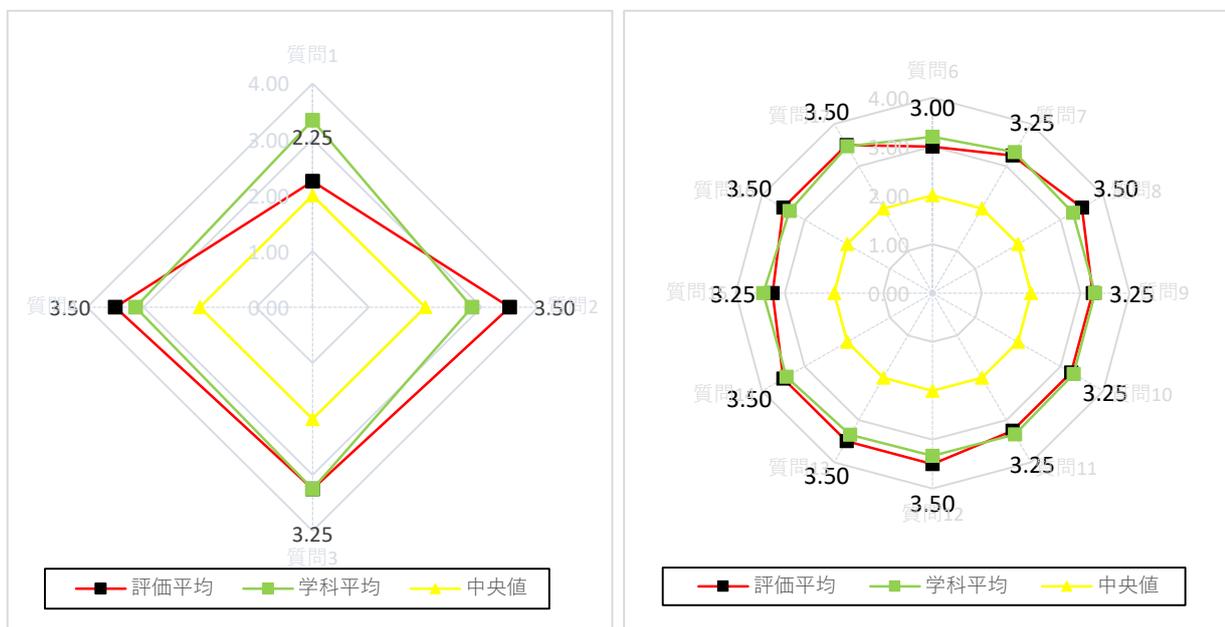
この科目は、4年生の通年科目として実施している。すべての項目で学科平均を下回る結果となっている。特に質問1については、最も厳しい結果になっていると考える。質問1については、この科目の実施形態が講義形式ではなく、一人ひとりの面談形式で実施したため、講義への参加という意識が薄いのではないかと考える。学生にとっては、「講義」というより、「相談」という形式でとらえているのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度、この科目を担当することはできないが、他の科目を実施する際の参考としたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

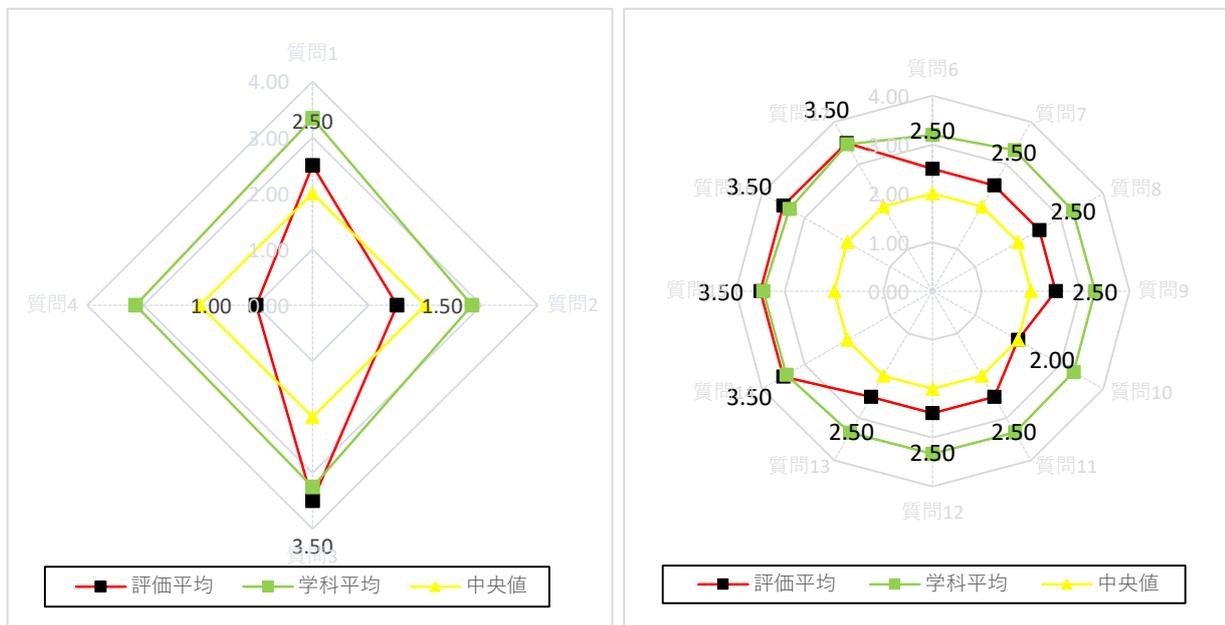
授業の出席状況 (2.5以下) が学科平均と比べて悪い。
シラバスについての説明 (3.0) 以外の項目については3.5前後を推移し、学科平均と大きな差は見られない。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業への参加を促すとともにシラバスについての説明をきちんと行い、卒業論文への取り組みを早めさせる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

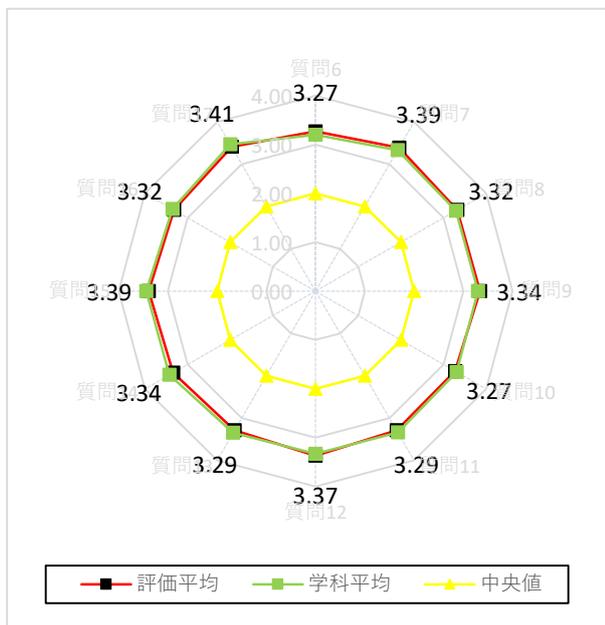
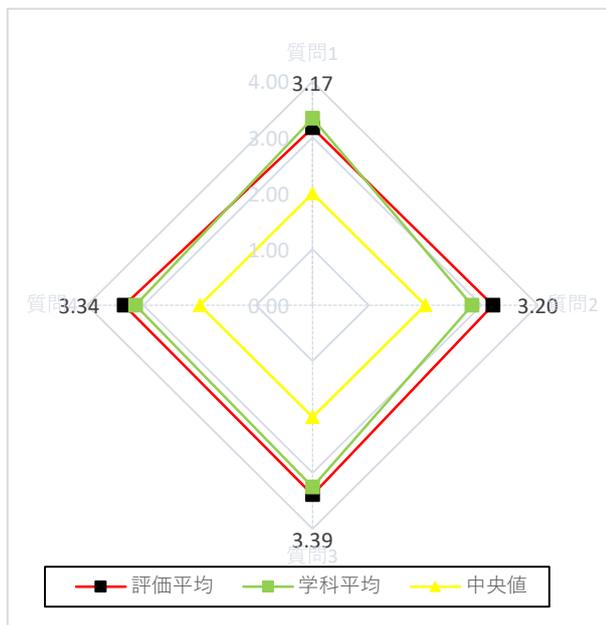
この授業はゼミ形式のため少人数で、回答者も2名と少ない状況であった。そのため、回答が分かると評価が難しい部分もある。評価が1の回答があった質問は、1、2、4、10で、特に質問4において2名とも回答したことが気になる。授業では、卒業研究に取り組む上で積極的に参考文献等の資料収集やプレゼンの効果的方法等について事前習得を勧めたが、なかなか行動まで至らなかったようである。また、質問14、15、16、17は高い評価であったことから、学生への対応が良好な状況であったことが受け入れられたと推察される。今後も今回の結果を基に、よりより授業が展開できるよう工夫、努力していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

少人数の授業であるため、今年度に引き続き個々の学生へ対応していきたいと考えている。特に、この教科は4年間の集大成の教科であるため、学生本人の自主的取り組みが積極的に進められるよう取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学概論	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

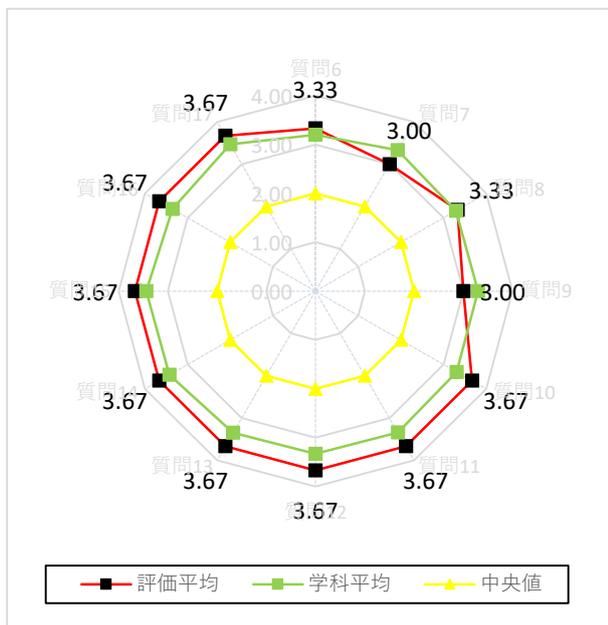
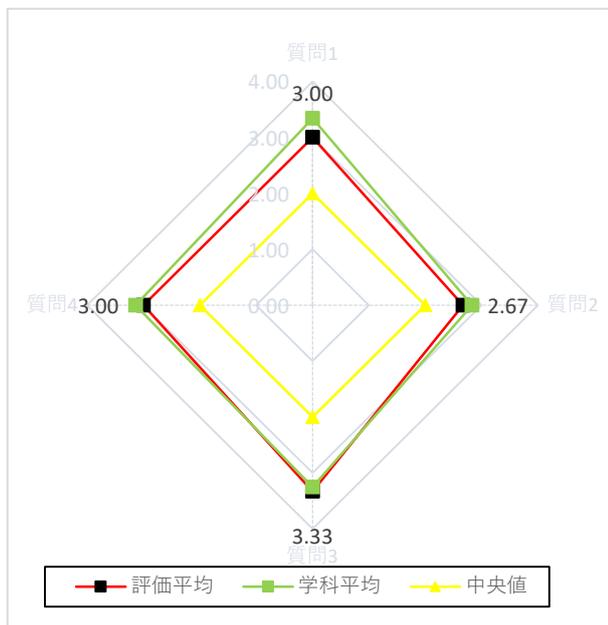
- ・ 学科平均との比較：全体として学科平均とほぼ同様であった。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫：学科の基幹科目である授業は、健康と福祉を融合させた内容であり、より身近な日常での健康と福祉の課題を取り上げた。授業に関する質問は、毎時間受付けて、次週の講義冒頭に全員に向けて質問の説明を行い、疑問の解消に努めるようにしている。
- ・ 授業全般に対する反省点：最新の知見を取り入れた授業。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業内容・方法の改善については、予習復習が可能となる様にしたい。
- ・ 次年度導入したい授業方法は、グループ間で議論し発表しあう「アクティブ・ラーニング」の回数を増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

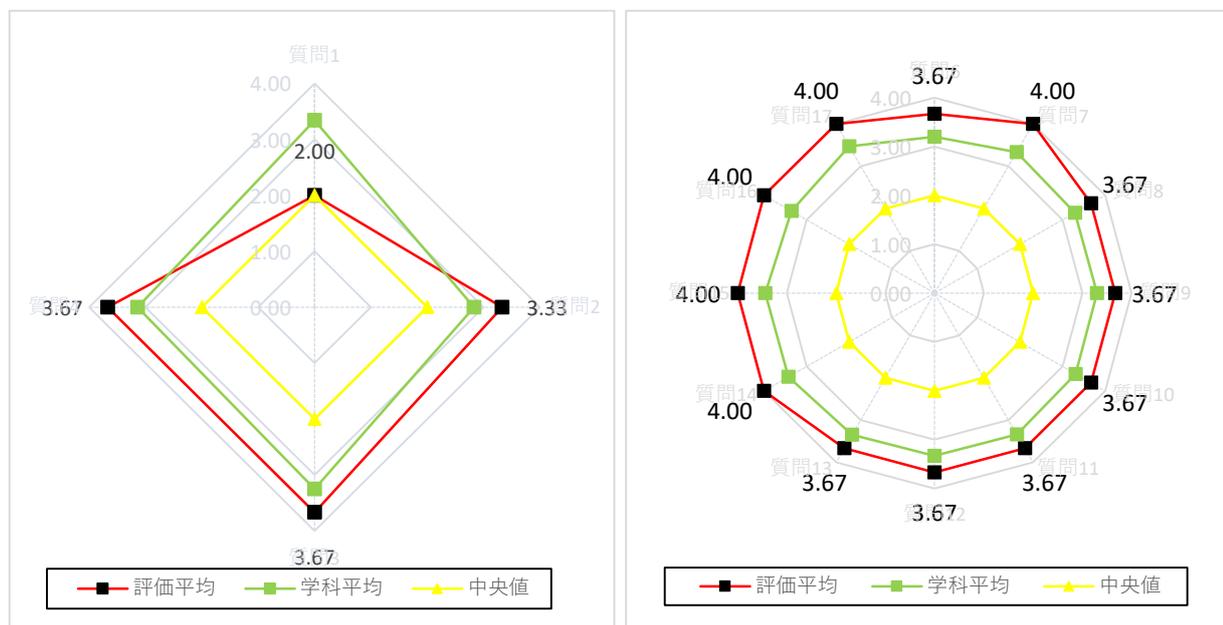
- ・ 学科平均との比較：「授業の到達目標、授業のわかりやすさ、シラバスの活用」が学科平均を下回っている。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫と反省点：卒業研究では、自己の考えをまとめ、発表する機会を増やすことが必要であり工夫したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 卒業研究では、指導の面で学生と接する時間が少ないので、オフィスアワーを活用した指導を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学科平均と比較してほとんどの項目でその値が上回っていた。

質問7、14、15、16は平均も満点であったことに関しては、ゼミナールの授業であったため、全体授業のほか、個別に卒論の指導を行い、学生の習熟度によって授業展開を行っていったことが今回の評価につながったと考えられる。

授業全般の反省点としては、卒論提出の時期が近づくにつれ学生動向があわただしくなったこと、前期から計画的に授業展開を進めていくことが課題であると感じた。

質問1の値が低いことに関して、授業にはかならず学生は全員が参加していたことから、学生の記入ミスと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

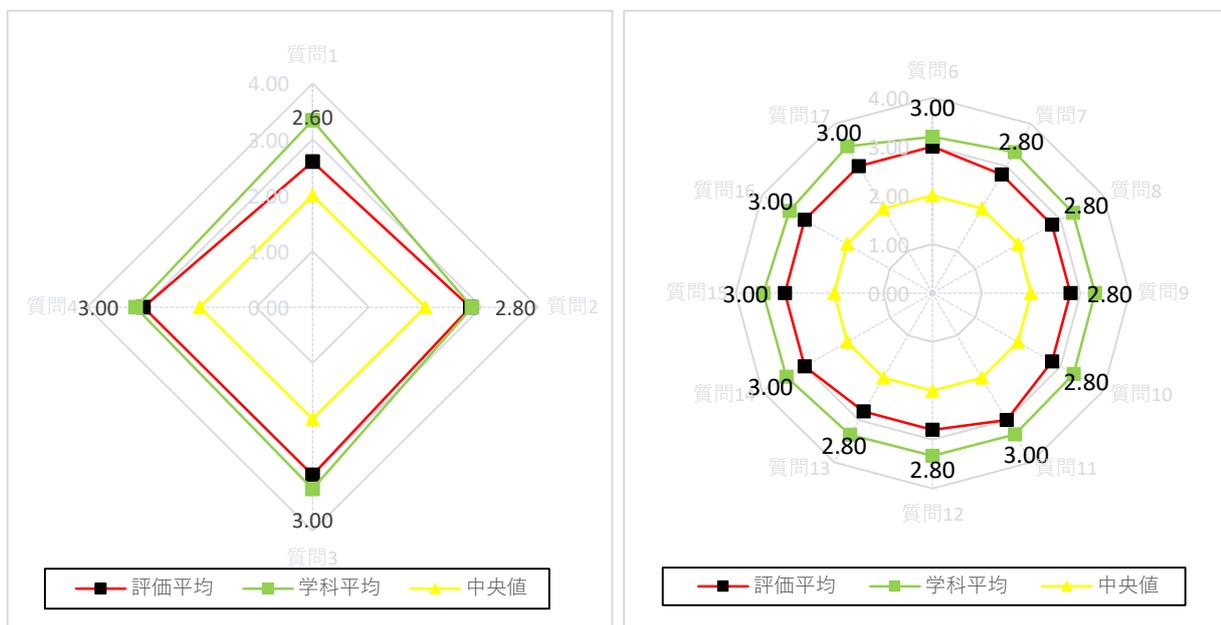
卒論に関する実験やその分析、論文執筆のスケジュールを早い段階から組み、学生が主体的に取り組めるような授業展開を図っていく。

また、全体授業と個別での指導が多くあったため、学生も負担が多いように感じた。次年度の取り組みとしては、全体授業と個別指導のバランスを上手くとっていく。その際に、各自のスケジュールを確認しながら余裕を持って卒業研究ができるよう学生指導を行っていく。

学科としては卒業研究の要旨提出が単位修得の要件であるが、本授業においては希望者がいれば卒業論文としてまとめていくことも可能にしている。今年度は5名中2名が最後まで書き上げることが出来た。次年度も引き続き、学生指導を行ううえで本論として書き上げたい学生が出た場合には指導を行って生きたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

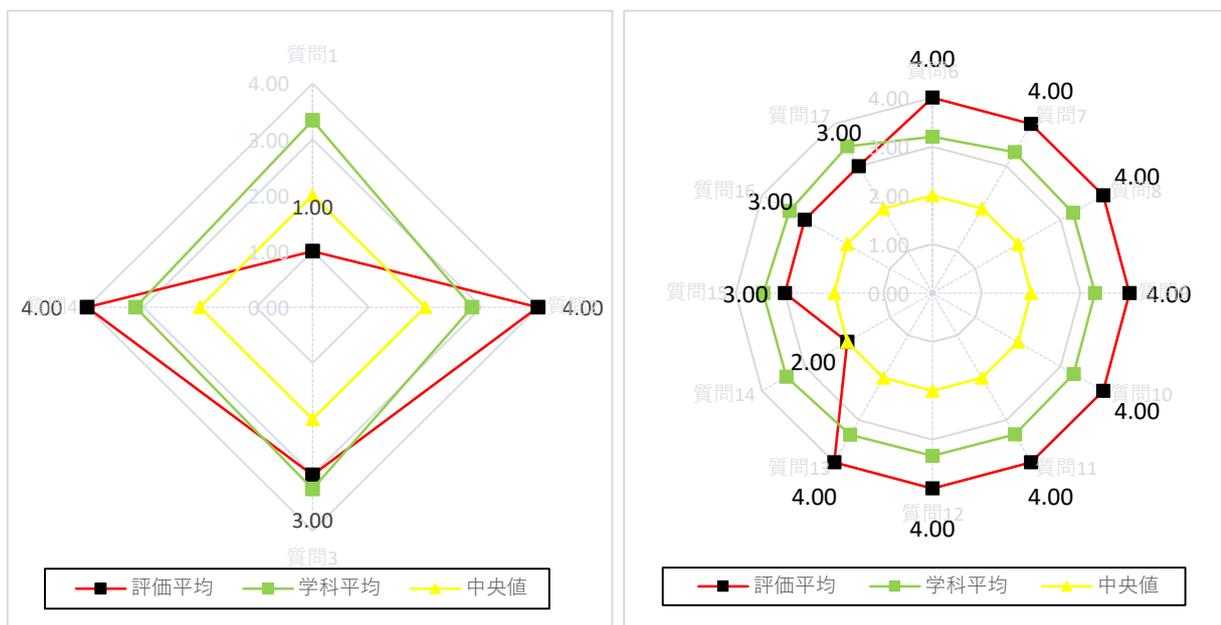
個全体授業を数回実施したのみで、1年を通じて個別指導での展開となったことから、受講生の回答に戸惑いがあったのではないかと推察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

個別指導中心であるとはいえ、質問3、4、9、16、17については評価が上がるよう、意識して学生とのやり取りに努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

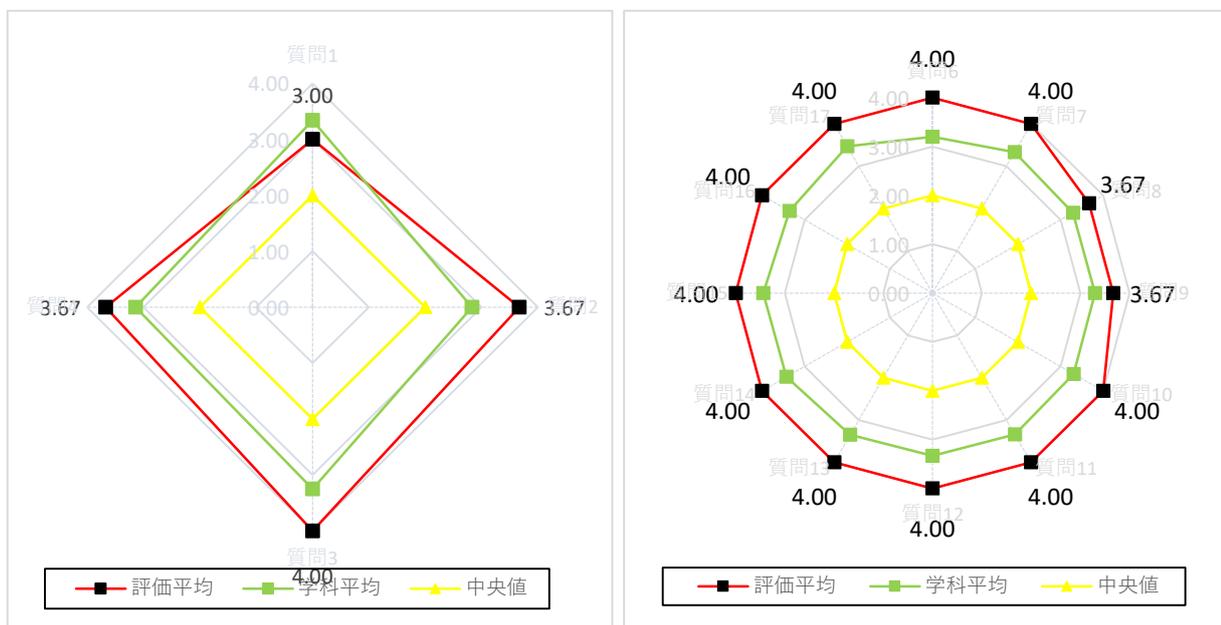
学生の授業態度については欠席が1.0と大変悪い。シラバスの活用自分で工夫は4.0で学科平均を上回っている。居眠り、死後については3.5を下回り学科平均にも下回っている。教員の授業に関しては質問6から13までは4.0と高く、学科平均を上回っているが、学生の質問への対応、公平な対応、双方向的なやり取り、熱心な授業に関しては中央値を上回っているものの学科平均を下回り反省すべき点である。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の授業への出席を促すとともに、学生の質問への対応、公平な対応、双方向的なやり取り、熱心な授業に関しては猛省をし、次年度は適切に対応したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

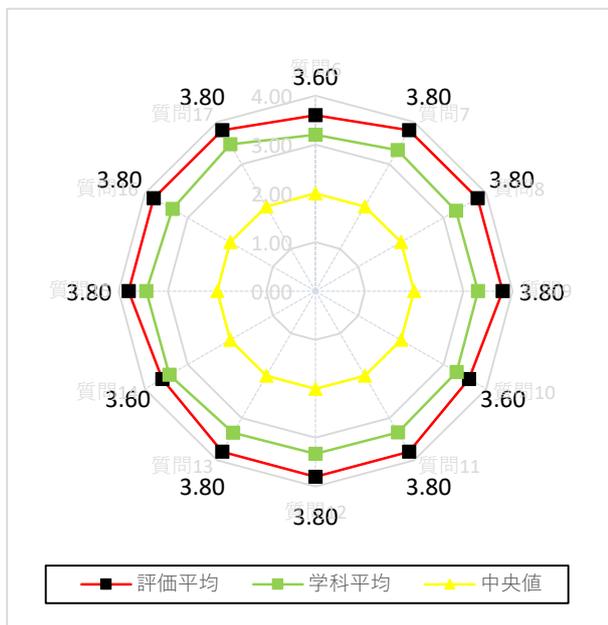
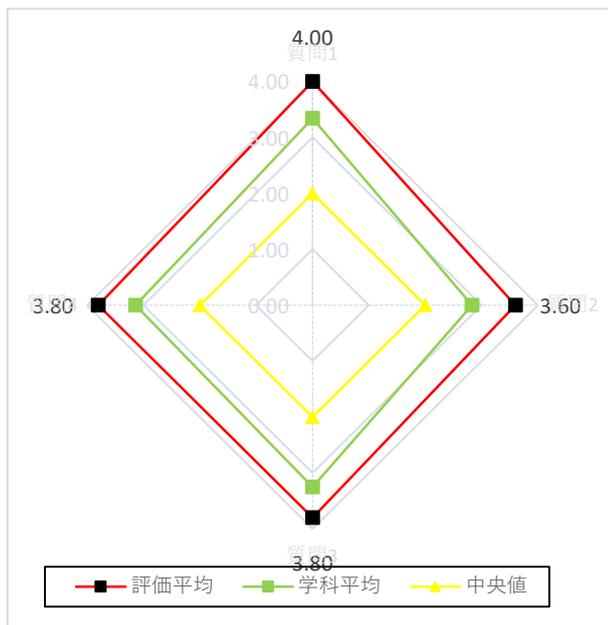
ゼミ学生8名のうち3名からの回答があり、全体評価としては概ね良好と考える。特に質問6以降の項目においては4評価を得た質問が多く、今後も継続できるよう努力していきたい。その中で3評価があった質問8、9から、授業への工夫への取り組みが今後への検討課題として挙げられる。この教科は4年生受講の「スポーツ健康福祉学演習Ⅱ」に続く教科であるため、その基礎的内容を学習し自らが主体的に取り組めるよう展開しなければならない。今後、この評価結果を基に改善努力に努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は、ゼミ授業である「地域スポーツ実践演習」の活動準備とも重なる部分もあったため、次年度はそれぞれの授業内容を明確にして取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動学（運動方法学を含む）	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の出席状況、授業態度、授業理解のための工夫については4.0とクラス平均を上回っている。シラバス活用については3.5ではあるが、クラス平均を上回っている。

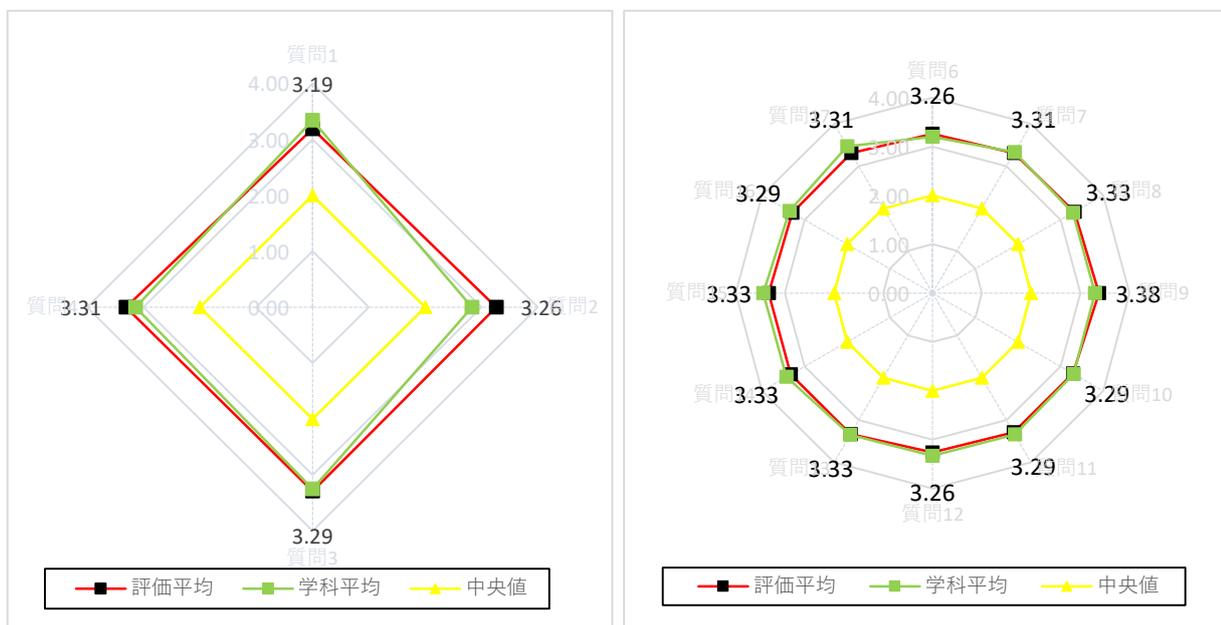
教員による授業到達目標の明確化、興味関心が持てる、分かりやすくする工夫、視聴覚機器や板書の用い方、教科書・配布資料の効果、声の大きさ・明瞭さ・話す速さ、授業の進む速さの適切さ、学生の質問への誠実な対応、学生への公平さ、双方向的な授業、熱心な取り組みについてはほぼ3.5以上で学科平均を上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価平均がすべて学科平均を上回っており、継続して授業を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		生理学（運動生理学を含む）	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

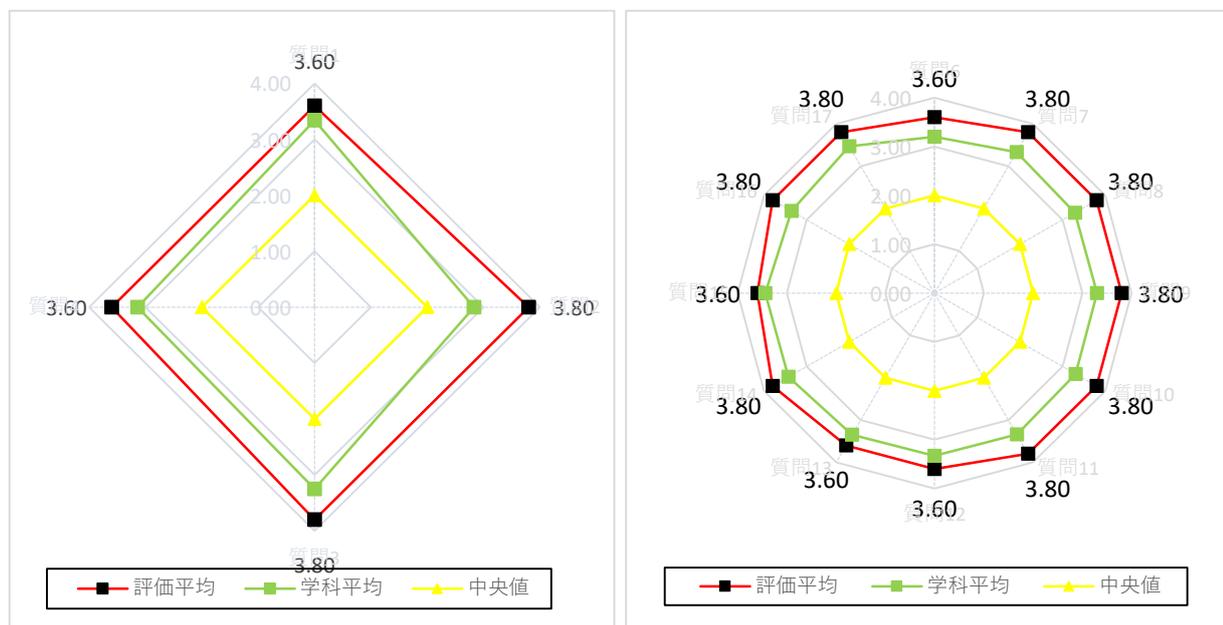
- ・ 学科平均との比較：全体として学科平均と同じであった。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫：授業は各項目をより自身の身体活動問題として捉えるようにし、毎回の授業において学習した内容を次週に繋げるために、220字以内でまとめる小レポート作成を義務づけた。また、授業の理解度確認のために小テストを実施した。
- ・ 授業全般に対する反省点：生物学を高校時代に履修していない学生への配慮が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業内容・方法の改善については、視聴覚教材を用いて、学生自身が興味・関心が持てるようにしたい。また、生体測定演習を取り入れた授業を試みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ心理学	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

受講者47名に対し回答者5名であったことから、評価に関するコメントが難しいが、考えていきたい。まず、学科平均よりも平均値が高かったことから、回答者5名にとっては授業の展開に問題はないと推察される。

資料については、理解度を深めるための資料にとどまらず、昨年度で出来なかった卒業後にも役立つ資料の紹介があったことが、今回の結果につながったのではないかと考えられる。

授業全般に関する反省点としては、例年に比べ成績不可となってしまう学生が多かったことがあげられる。

また、授業での活発なディスカッションを促したが、積極的な雰囲気になることが少なく、授業展開の工夫が求められていると痛切に感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

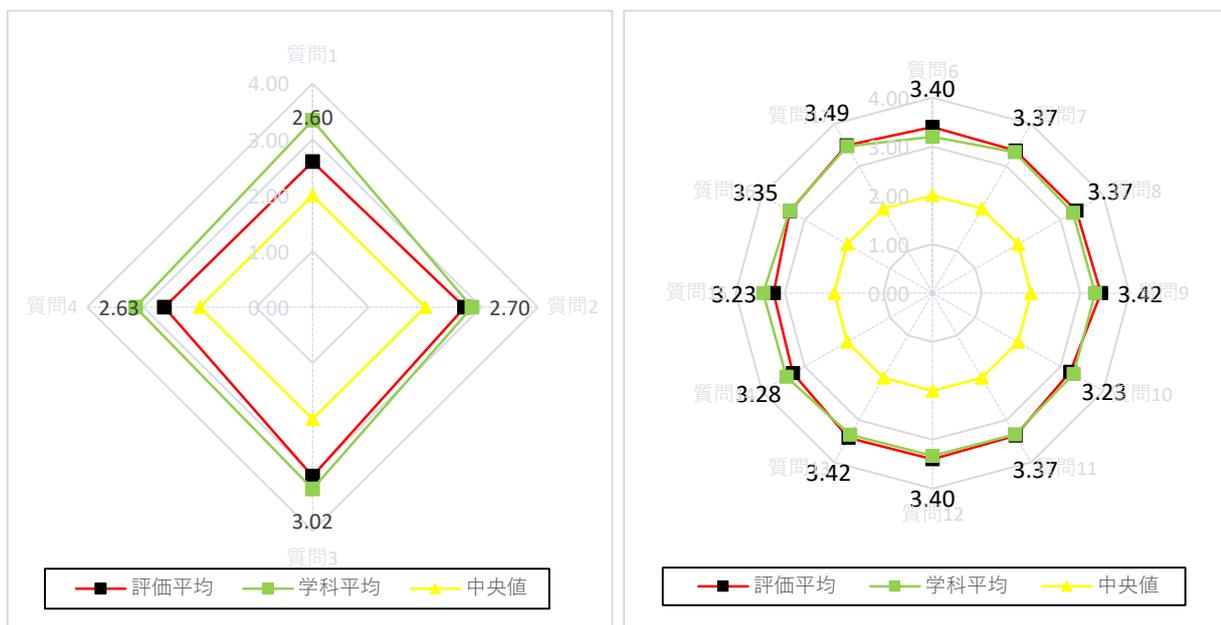
回答者がかなり少なかったことに関して、次年度は授業が進んで後半に差し掛かったところで積極的にアナウンスをしていく。

また、授業内アンケートもとっているが、自由記述のためなかなか意見集約が出来ていないため、今後は授業内アンケートの雛形を変え、学生が記入しやすい工夫を行って授業改善を図っていきたい。

また、成績不可となってしまう学生が多く出てしまったことに関して、理解度をその都度チェックしながら授業を展開すると同時に、積極的に授業に取り組めるように、学生の興味関心を聞いた上で授業内容やスタイルを柔軟に変えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ社会学	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

46名中、43名から回答を得た。

学生自身、特に質問4による「自らの工夫」に関する評価が低い。

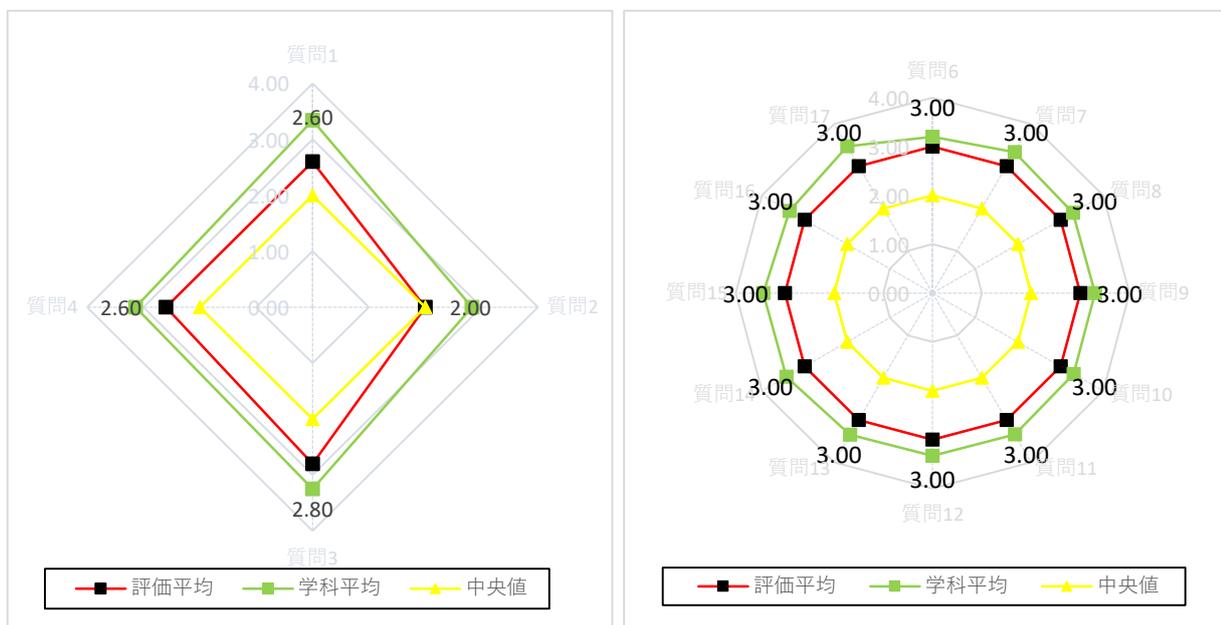
授業に関する設問は概ね平均的な評価を得ている。その中で、質問14と15が若干下回っていることから内容改善が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身の授業に対する意欲を高めるため、グループワークの導入など受講生が主体となる授業内容への工夫・改善が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツマネジメント論	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

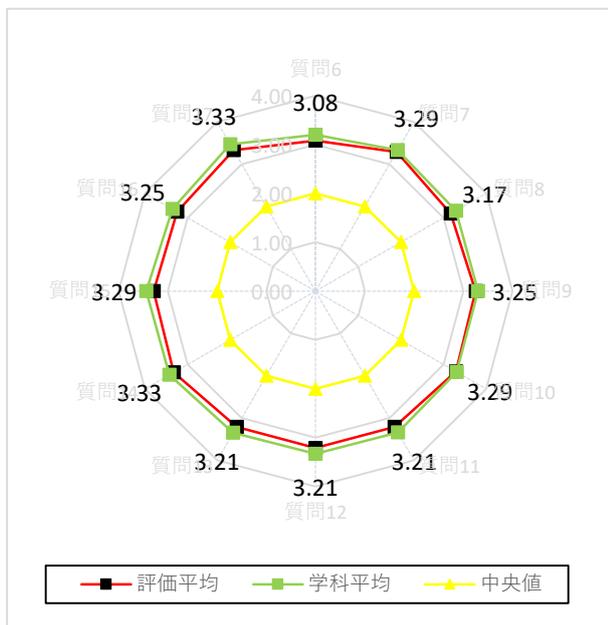
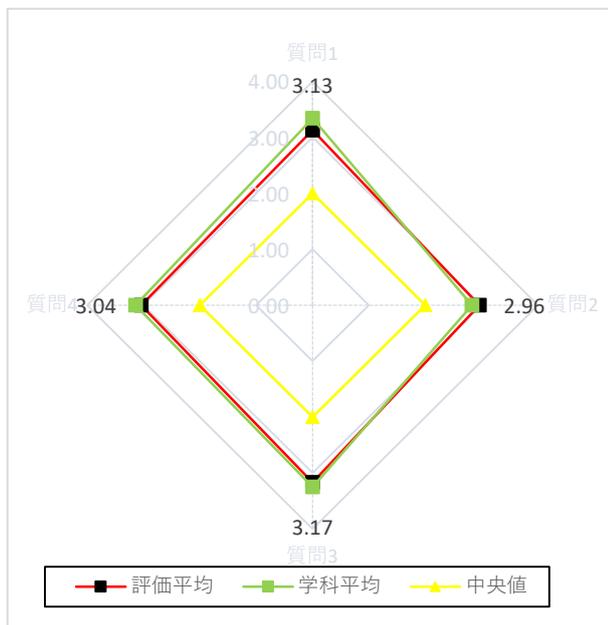
受講者8名中、5名の回答。
 全体的に学科平均を下回っていることから、全ての面で改善が必要である。
 特に評価の低い質問2に関しては、受講者が少なかったことから、シラバス内容を一部変更して展開したことが影響したものと考えられる。
 また、受講生主体であることを意識しすぎたことにより、受講生一人ひとりの負担度が高かったことも低評価の要因になっていると思われる。
 なお、一部の回答者に正当な評価をしていないことが予想される（存在しない質問項目18以降も2の評価が連続）ものがあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講生が少人数の場合、受講生一人の負担が過度にならないよう、余裕を持った授業進行に努める必要がある。
 なお、授業内容・方法についても受講生から意見を拾うようにして、双方向の授業展開が成立するように努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		衛生学（公衆衛生学を含む）	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

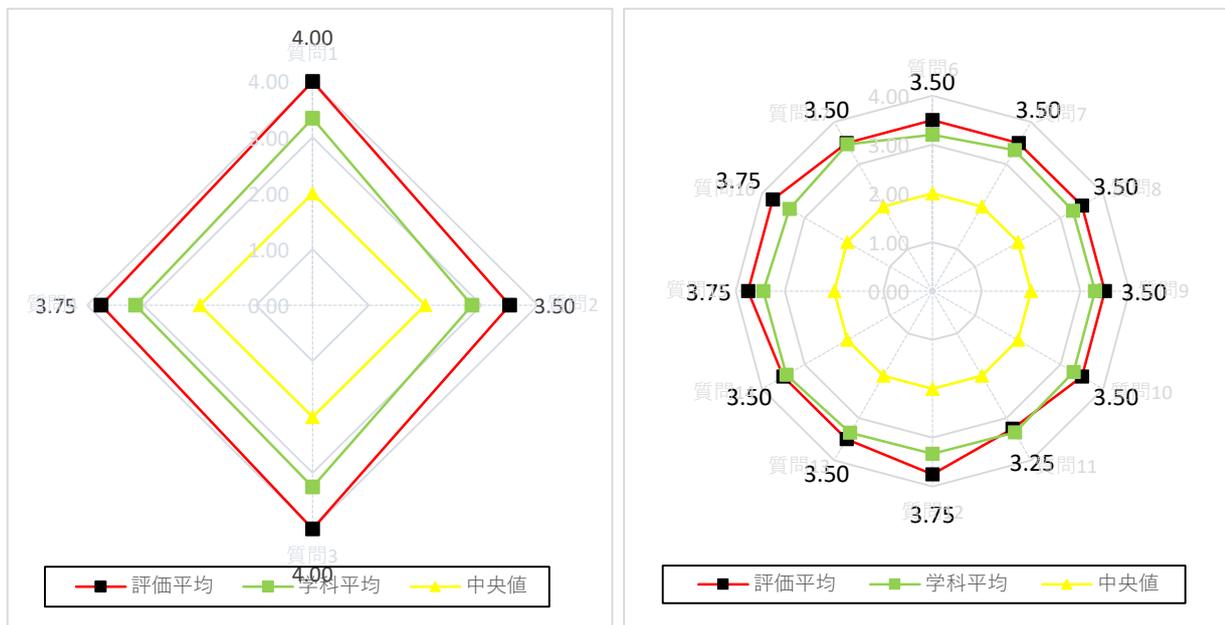
- ・ 学科平均との比較：全質問項目は、ほぼ平均である。
- ・ 授業の目標及び授業の工夫：授業は生活に身近な問題として捉えるようにし、毎回の授業において学習したキーワードを提示し220字以内でまとめる小レポート作成を義務づけた。授業に関する質問は、レポートの欄外に設け、次週の講義冒頭に全員に向けて質問の説明を行い、疑問の解消に努めた。
- ・ 授業全般に対する反省点：授業時の資料については、教員が作成し配付によったが、衛生統計の資料が十分でなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業内容・方法の改善については、日常生活でより身近な健康に関連する内容を主として、学生自身が興味・関心が持てるようにし、地域社会の生活支援に活かされるように引き続き継続して実施したい。講義終了時にその時間の課題を学生自身で取り上げての事後学習、また、事前学習が可能なようにするために、次週のテーマを示す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		救急処置（学校安全を含む）	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

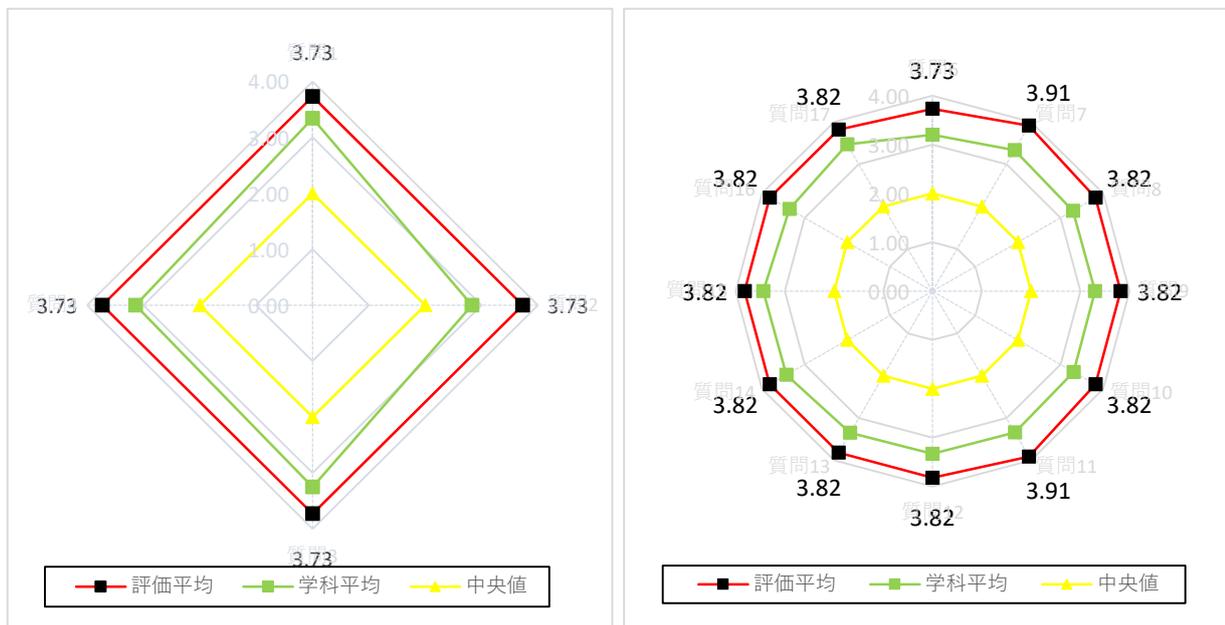
満丸記入分：回答率8.8%（4/45人）と非常に低い。回答の促しが必要だった。テーピング3回を担当。実技中心であったため双方のやり取りが出来たと思うが、教員1人に対して学生45名、かつ解剖学や運動学ひいてはスポーツ外傷の知識の無い学生に対して、テーピングのレクチャーであったため難しさも感じた。学生が満足にテーピングを学べたか危惧する。

(3) 次年度に向けての取り組み

満丸記入分：解剖・運動学、スポーツ外傷の知識もないままテーピングについて理解することは困難でありかつ学生の満足度に疑問ものこるため、内容を検討する必要もあると感じている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習1 (体づくり)	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

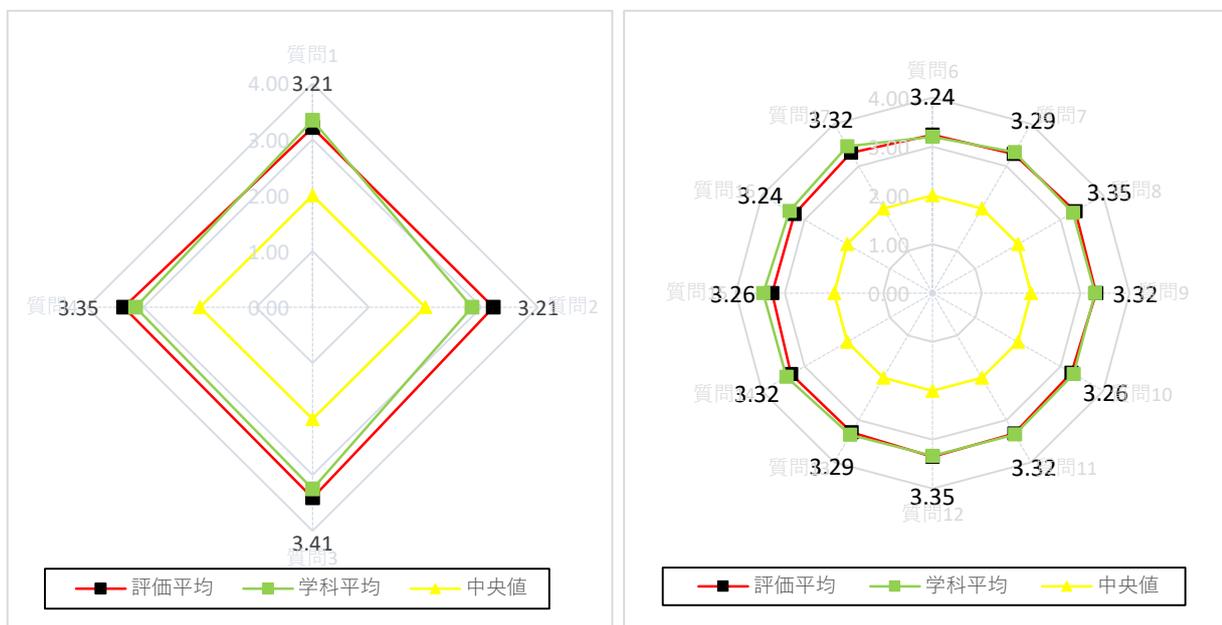
学生の出席状況、シラバス活用、授業態度、自分の工夫についてはすべて学科平均を上回っており、それぞれの評価点も3.5以上である。
 教員の授業に関しても、全ての事項で学科平均を上回っており、評価点も3.5以上で高い評価を受けている。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も継続した内容と方法で授業を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習2（器械運動）	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

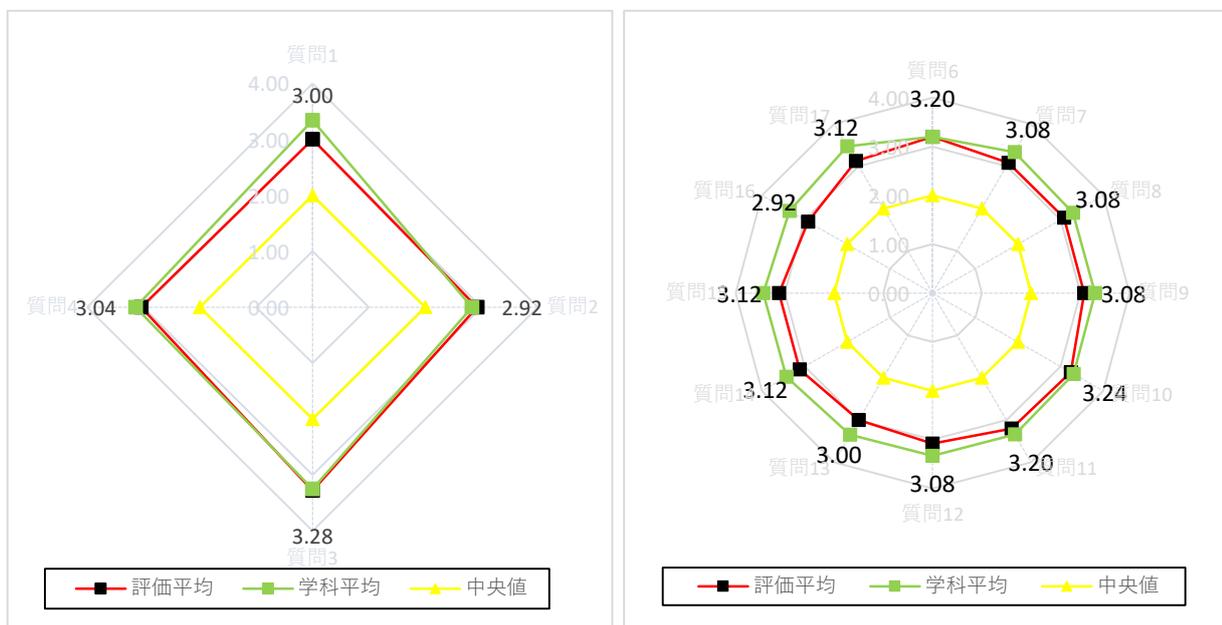
教員になるための必修科目であり、教員採用試験の実技の内容でもある。学生にとっては高い課題ではあるが、学生の自己評価および教員の授業に対する評価はほとんど3.5前後であり、学科平均と同じである。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も継続した内容と方法で取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習3（陸上）	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

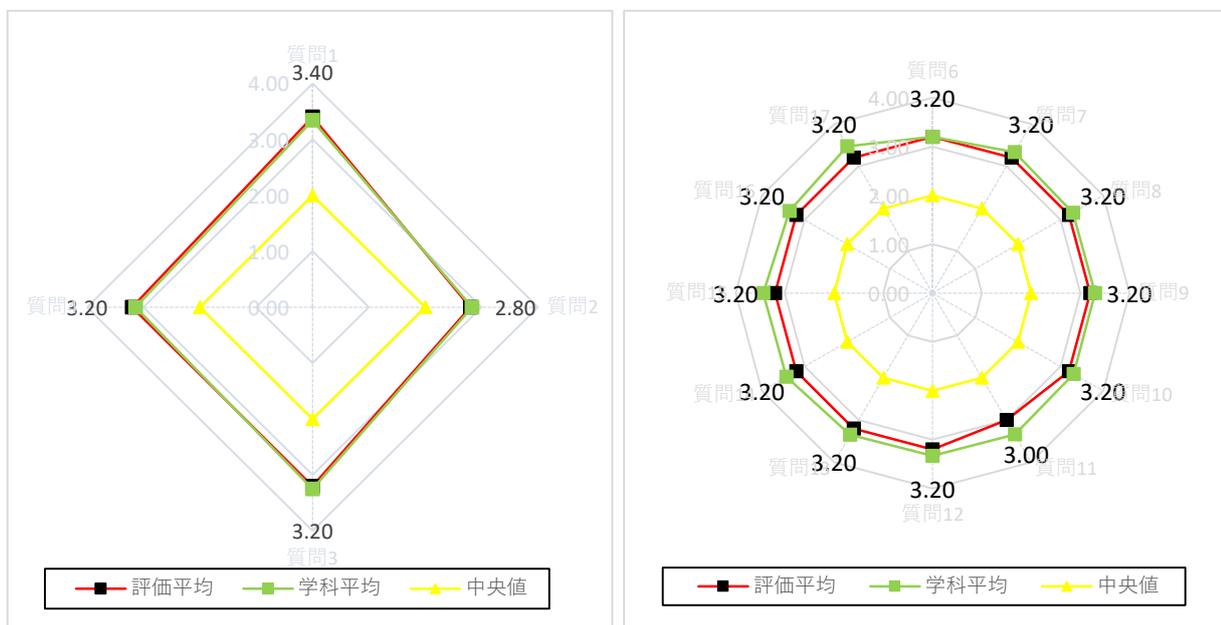
学科平均を下回っている項目が多く、次年度からの改善すべき点が多くある。
 質問3、4にもあるとおり、今年度受講した学生の授業に取り組む姿勢や雰囲気が悪くなく、私語が何度注意しても改善されなかったことから、まずは、授業内容だけでなく、学生の受講態度が改善できるような授業の工夫をすることを行っていく必要があると思われる。
 学生が動く時間を多く取り、双方向の授業も行ったつもりだが、質問16にもあるとおり学科平均を下回っていることから、授業スタイルの改善をしていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業が双方向的なやり取りをしながらできるように、習熟度チェックシートを作成し、毎時間ごとに記入させ、学生自身の理解とその状況把握を「見える化」させて、授業展開していく。
 また、学生が主体的に積極的に授業に取り組んだり、課題意識をもちたりできるように毎時間目標設定を行い授業に取り組むような授業スタイルにしていく。
 実技系授業であるため、技術の習得ではICT教材を使用した学習の展開も今後検討していく。
 回答者数も受講者数41名に対し25名であることから、全員からの評価を授業改善に役立てるように、授業評価アンケートをおこなうように授業中にさらに促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習 5 (バスケットボール)	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

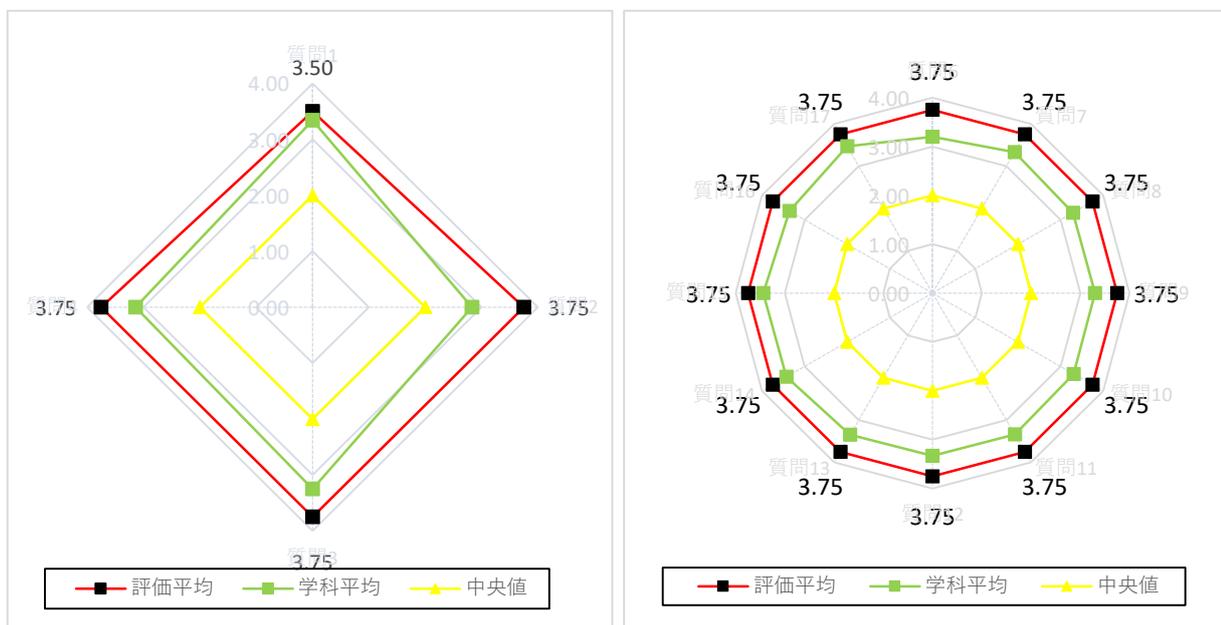
質問項目 1 1 及び 1 7 がやや低く、全体的にも学科平均よりもやや下回っている。実技と演習の組み合わせとう形式で実技は基本的にグループ学習を中心に行っている部分で教員のかかわりが少なかったことがこの結果ではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降はこの講義は担当しないがこの反省は別の講義で活かしたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習9（ダンス）	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

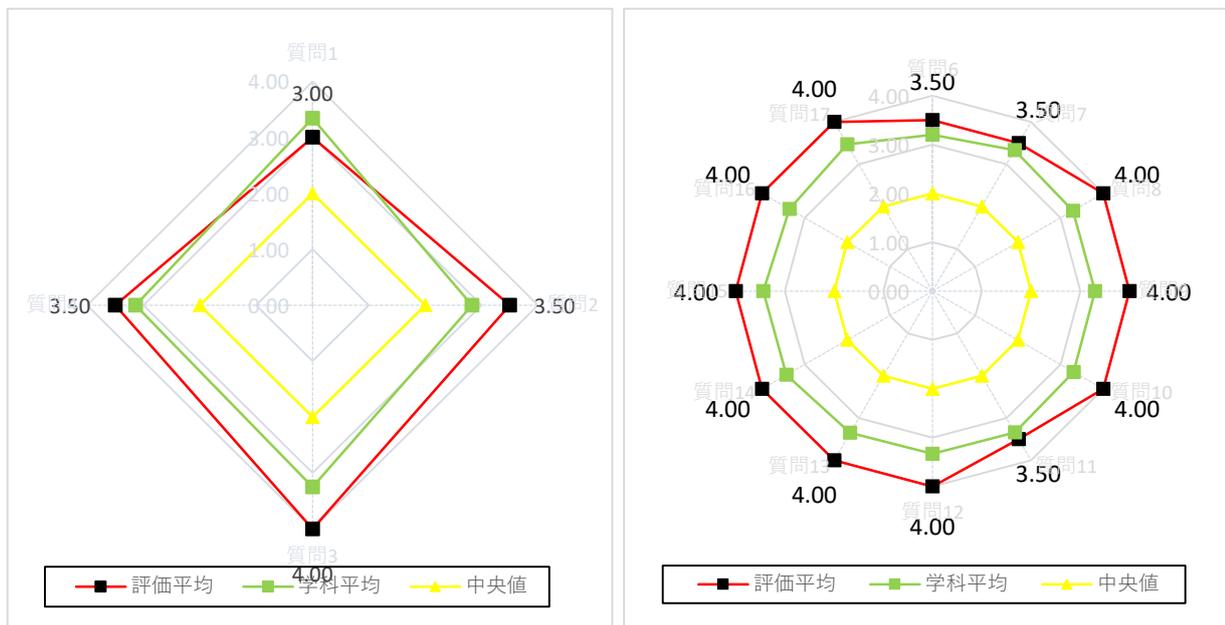
ダンスに馴染みがない学生が多い中、2年生ということもあってクラスの雰囲気もよく授業がスムーズに進められたと思う。学生の意欲的な態度や積極的な取り組みにより学習効果が上がったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習目的や内容を明確にする。動きのバリエーションを広げ、グループや個人での身体表現の楽しさの体験。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習 1 1 (アダプテッド・スポーツ)	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

受講生 21 名中、2 名のみからの回答。

回答者が少ないことからあくまでも参考として捉える必要がある。

演習科目は相対的に高い評価が得られる科目であることを前提に分析する必要がある中で、質問 7 と質問 1 1 については学科平均値は超えているものの、それぞれに改善が必要である。

質問 7 については、障がい者スポーツ指導者資格取得の中心科目の一つであることから、繰り返し受講生に意識させる必要がある。

質問 1 1 については、前期の理論科目で教科書全ての内容を確認していることから、本科目では補足的使用に留まっていることが要因として考えられる。

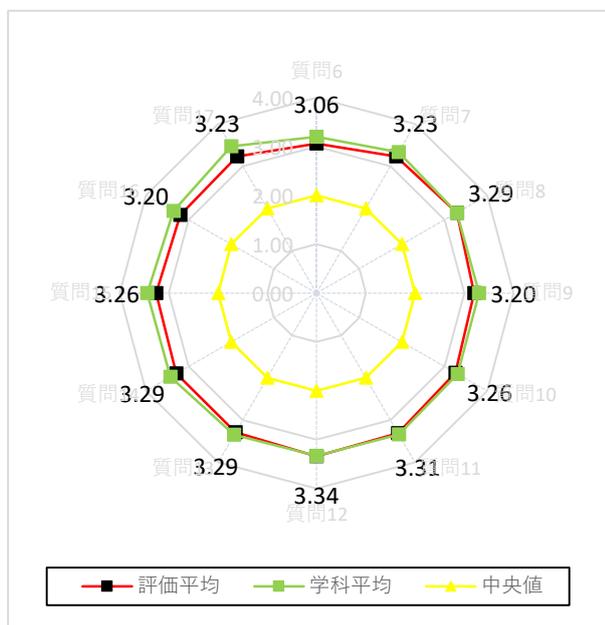
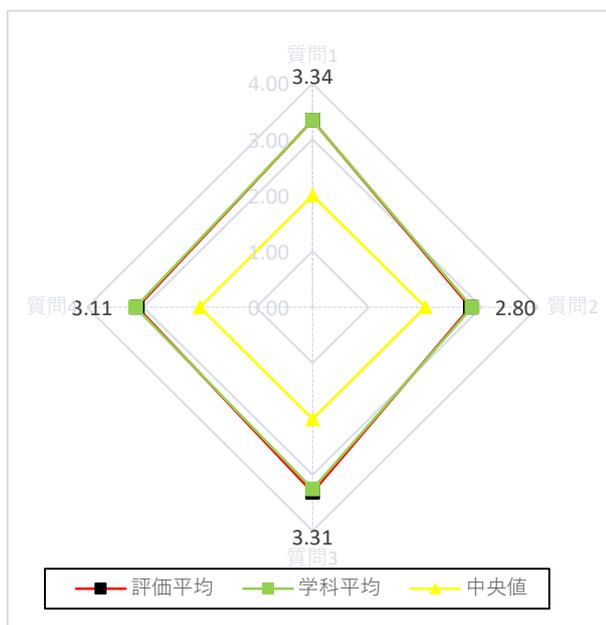
(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は単に単位を取得することが目的ではなく、資格取得に必要な中心科目であることを意識させる繰り返しの言葉がけを行う。

教科書に指定しているものについては、補足的使用に止まらず、前期科目の内容を復習・再確認するような使用に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動処方	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

運動処方においては、医学的な基礎知識も必要となるため、スポーツ健康福祉学科の学生にとって難易度は高いと考えられる。

1・2年生で学んだはずの知識を確認しながら進行するよう努めたが、生理学や解剖学などの基礎知識が不足しているため、都度解説するように心がけた。

一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にも音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。

講義室等で実施可能な範囲で測定演習を取り入れ、実体験としての理解を促すよう工夫した。

当初は学生全体において、授業と休憩時間のけじめがなかったため、授業態度の改善や、授業への集中力をつけさせることにエネルギーを要した。

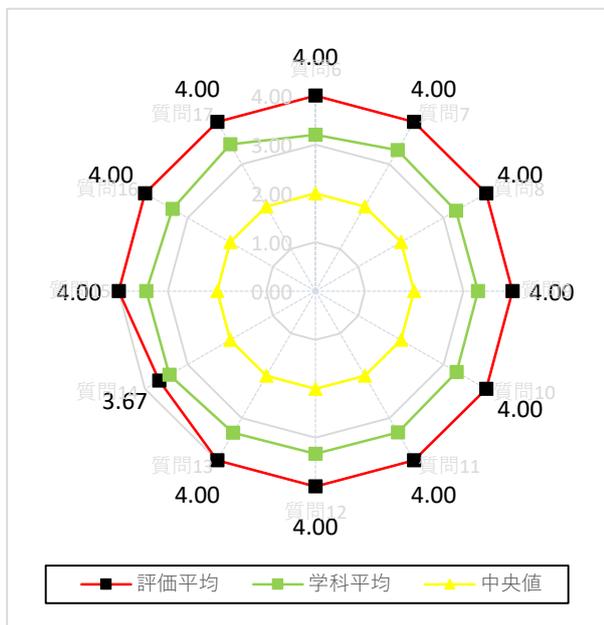
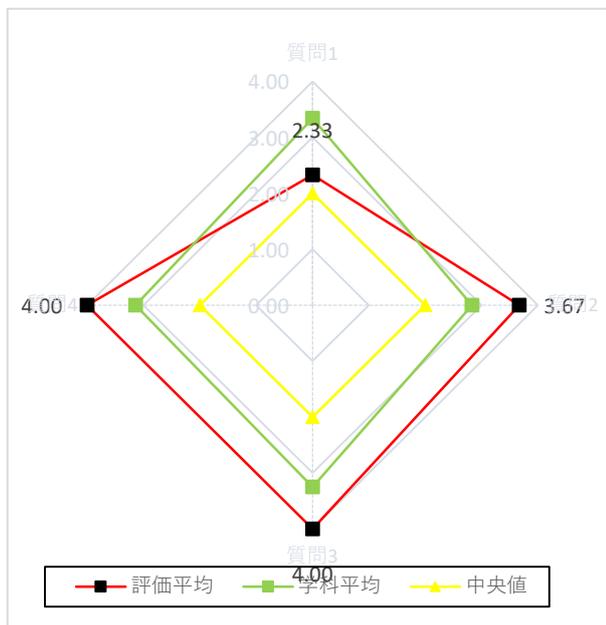
シラバスについては初回授業時に一括してスライドを使って説明しているが、進行状況によってシラバス通りには行かない場合も当然ながら発生するため、授業ごとに当日の到達目標や次回の予定を伝えるように心がけた。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動負荷試験	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

運動負荷試験では、大学で一部の講義を行い、ライフスタイル医科学研究所において運動負荷試験実習を実施した。

3種類の運動負荷試験について、学生を3グループに分け、1回の実習に半日を使い、3コマ分の集中講義として実施した。

学生の中には外部での実習と重なって、日程調整ができない場合も生じた。

運動負荷試験実習を通じて、学生相互で役割を交代しながら、様々な測定を体験してもらうことができた。

運動処方についての理解も深まると同時に、より実践的な学習ができたと思われる。

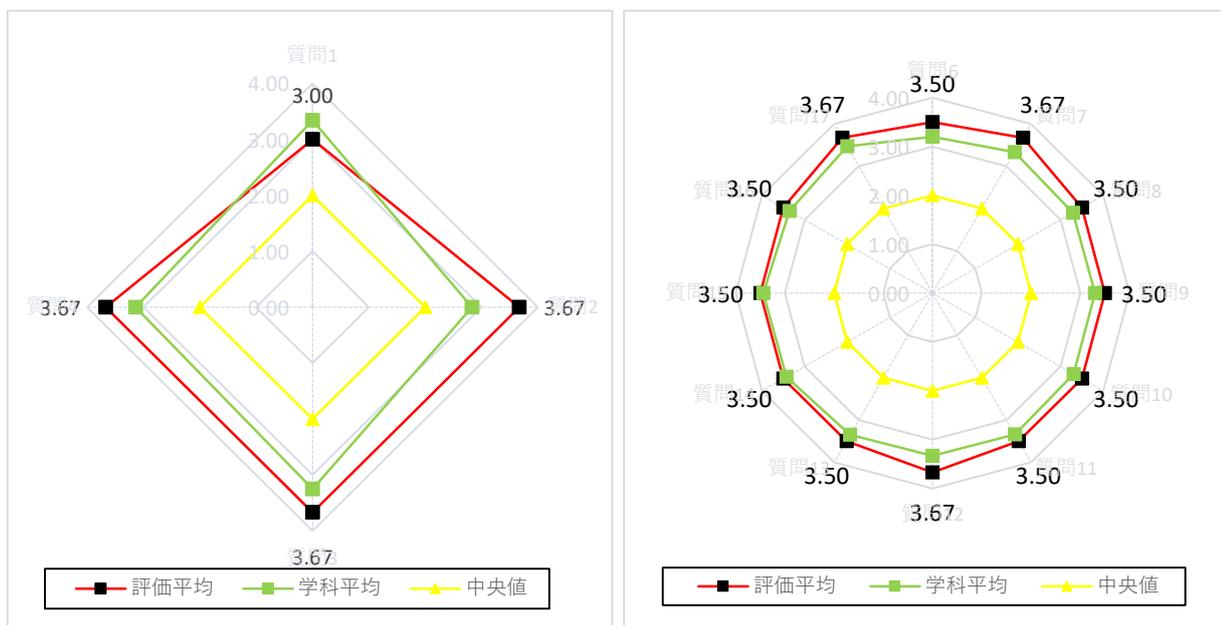
前期に比べて、学生の授業態度も改善が認められ、クラス全体で授業に参加する雰囲気は認められるようになった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、専門職としてのスキルを習得させ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		測定評価	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

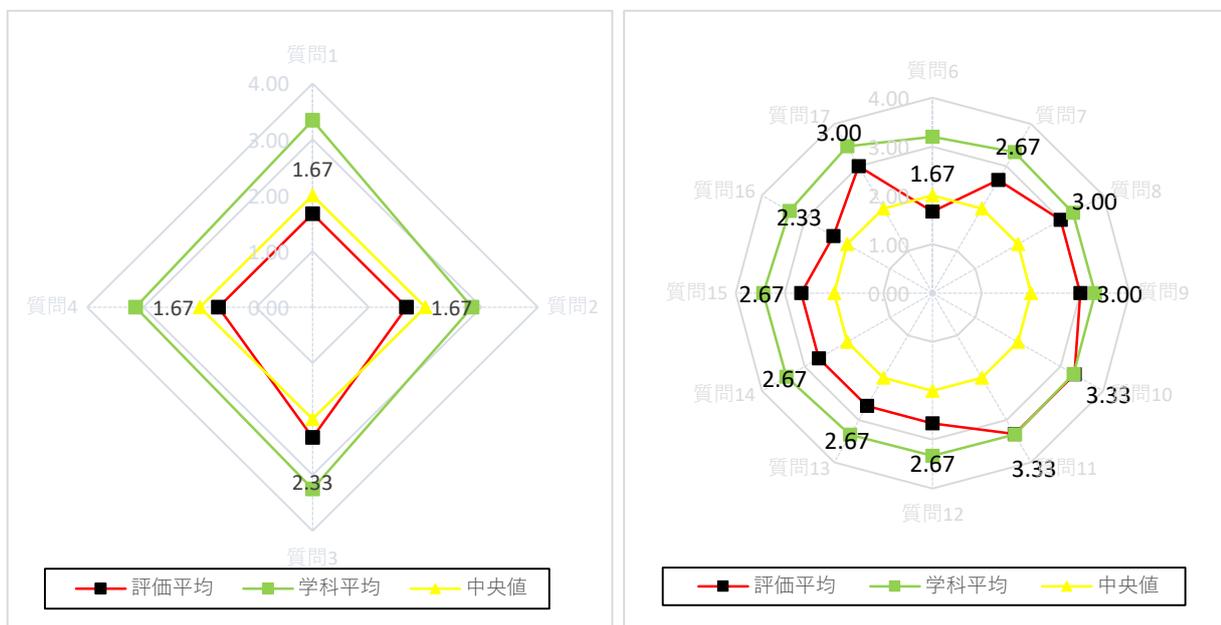
回答は、48名の履修者から8名あった。全体的評価については、質問1以外は3または4の評価を得て学科平均以上の結果を得ていることから、概ね良好と考えられる。例年、授業内容に測定等の実習を取り入れていることに好評のコメントがあるものの、今回の評価には見当たらなかった。準備等が大変であるが、今後も継続して実習を取り入れたい。現状に満足せず、少しでも分かりやす授業ができるよう、授業改善に努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業では、スライドや配布資料を基に解説し授業を進めているので、学生との双方向的なやり取りが少ない状況となっている。次年度は、この点を少しでも改善できるよう工夫してみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習Ⅱ	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

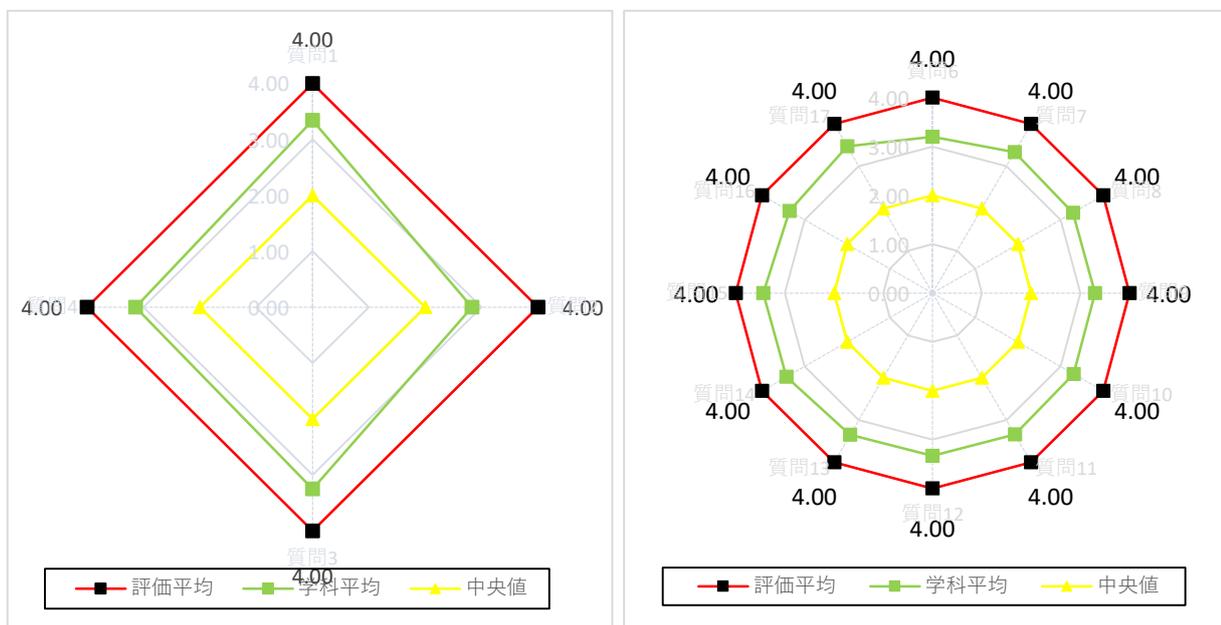
3名からの評価回答で、評価が分散している。学生自身の評価項目である質問1から4においては、全ての項目が3.0を下回っている状況である。また、質問6から17においても1評価も多く、今後改善努力が必要な授業である。ただ、この授業内容は資格取得のための受験対策でもあり、真剣に受験に取り組む学生と受験をあきらめた学生が混在することで、たいへん授業展開が難しい。せめて、受験希望者が目標達成できるよう授業への工夫を今後検討してみたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

受験対策としての授業の内容や進め方を次年度は検討し、改善したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康産業施設等現場実習	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

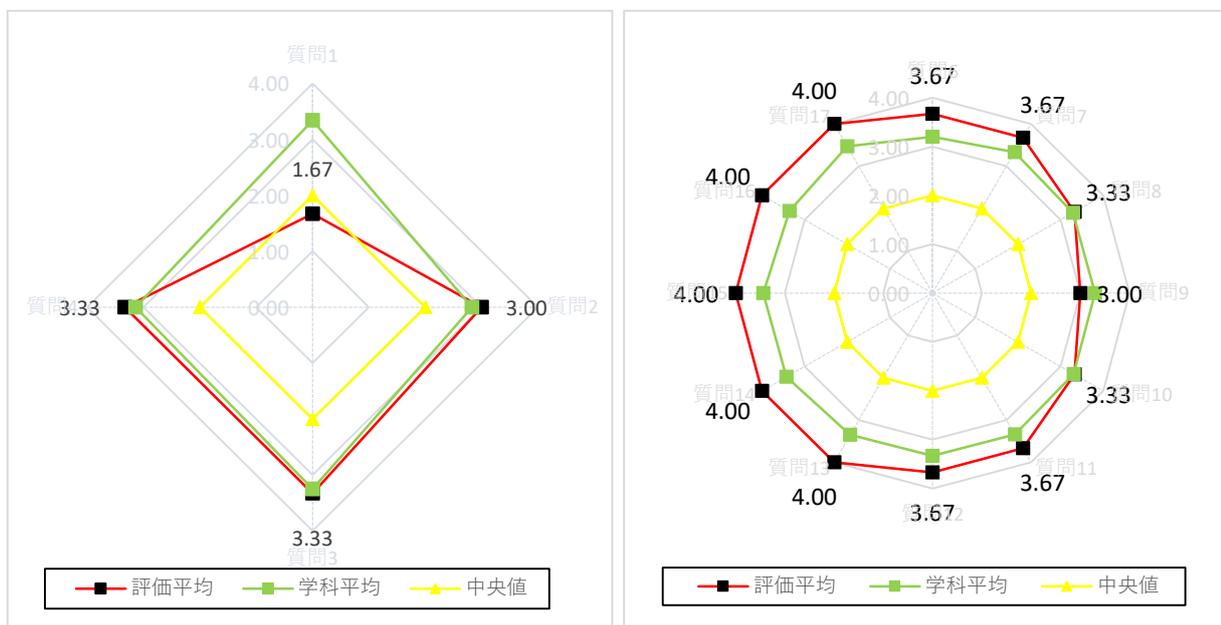
2名からの評価であり、全ての項目が4.0である。このことは、この授業が学外実習で関心が高く将来の就職や資格取得に大きく役立つ内容であったことを示していると考えられる。各実習施設の担当者には、この授業の趣旨や内容等について事前に打ち合わせをして受け入れしていただいている。今後も高評価を継続して得られるよう努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習の事前指導においてさらに理解しやすい説明と事後指導の取り組み内容を、次年度に向けて検討したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習 I	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

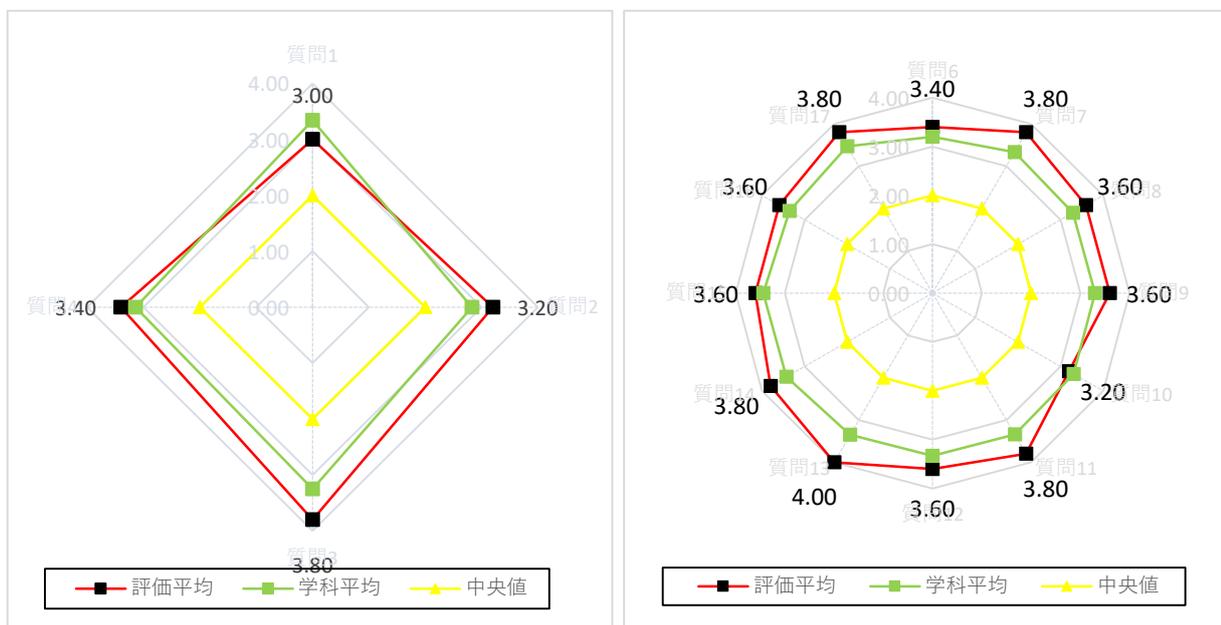
履修者22名のうち3名からの評価結果であるため分析には無理な部分もあるが、質問1以外の回答には3.0以上の評価を得ていることから、ほぼ良好な結果と考える。特に、質問13から17は、4.0の高評価を得ていることから今後も継続して取り組みたい。一方、質問9、10で評価が分散していることについては、今後検討、改善するものが必要と思われる。さらに、この教科は資格取得ための受験対策講座の内容の授業であるため、自宅でも自主的に学習に取り組めるように授業への工夫を今後考えたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後この教科に関連する資格取得者が多くなることが予想されるため、能率よくまた効果的に授業が進められるよう改善してきたい。また、引き続き個別指導もできるだけ継続して行い、全員が目標達成できるよう取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

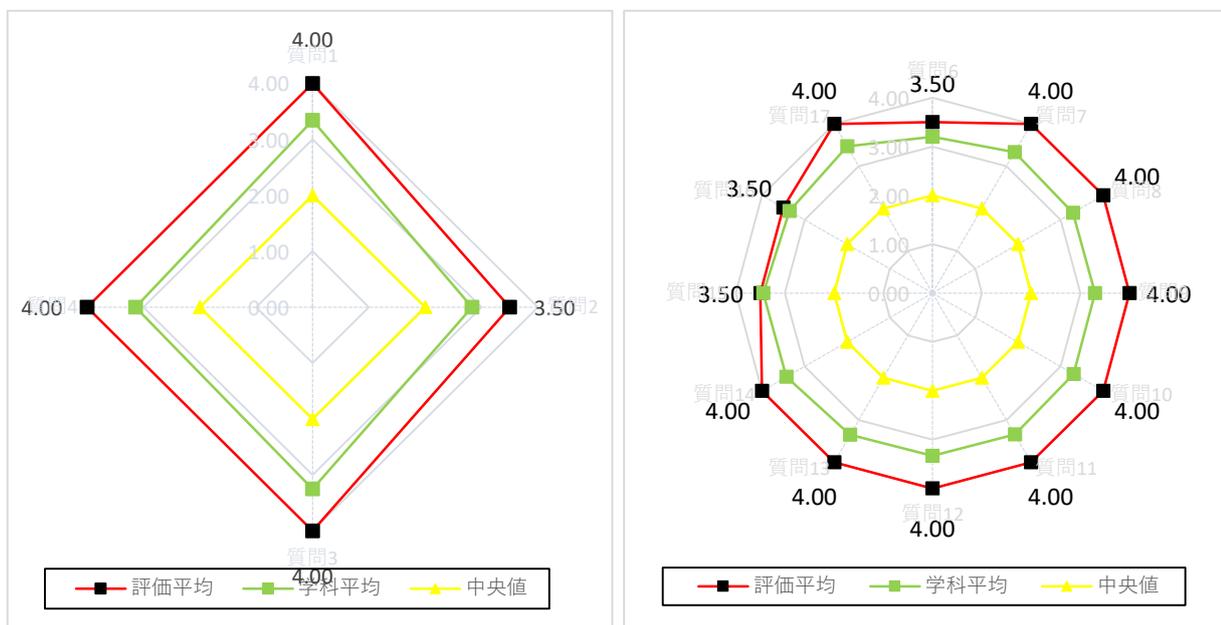
この授業は、本学科の3年生全員が履修している教科目でゼミ単位で取り組んでいる。今回の授業評価のアンケートに回答した学生は5名であるが、すべての項目で平均3以上の高い評価を得ている。しかし、質問1、2、6、10、12で2又は3の個別評価の回答もあり、結果やや低い値となっているところに今後の改善点の必要性があるものと考えられる。さらに、この授業は学生が主体となって実践に取り組む授業内容のため、その主旨や授業達成目標を十分理解させることも重要と考える。複数の教員で担当しているため、個々の教員の授業改善が求められる。今回の結果を基に、学科内でも今後改善のための具体的内容の検討をしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業に取り組んで2年目となり、次年度に向けて改善に取り組みたい。具体的には、学生自身が主体的にこの授業に取り組めるよう説明、指導し、他の教科では養えない実践力やコミュニケーション能力を身に付けられるよう授業内容等の改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		レクリエーション支援演習	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

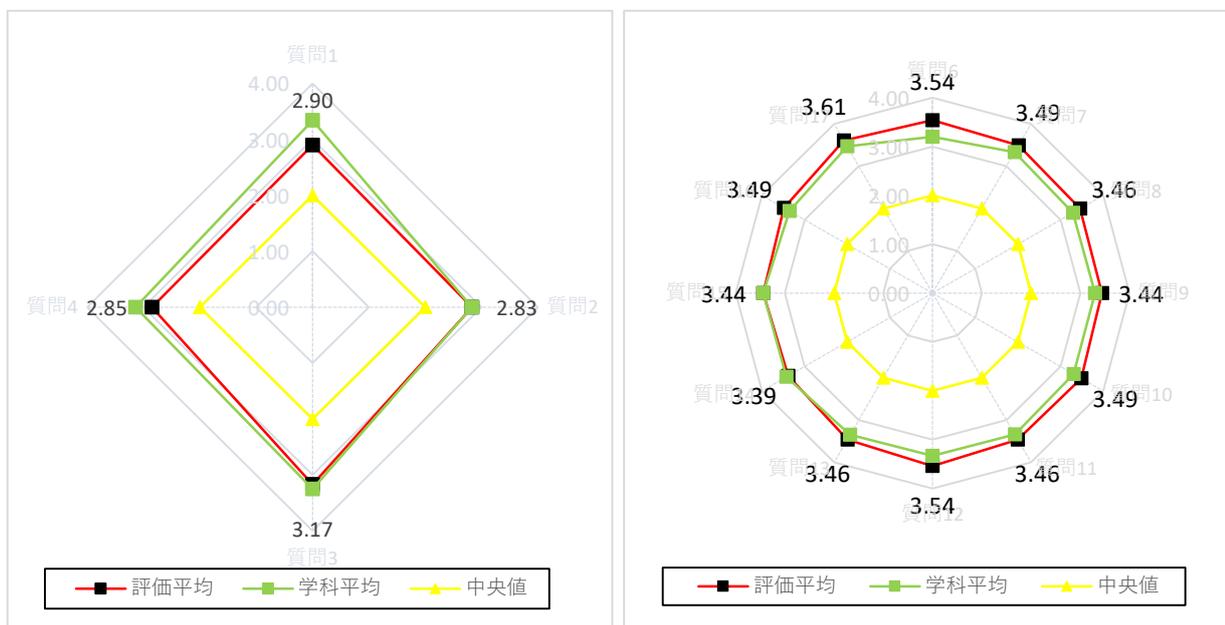
受講生24名中、2名のみからの回答。
 回答者が少ないことからあくまでも参考として捉える必要がある。
 演習科目は相対的に高い評価が得られる科目であることを前提に分析する必要がある中で、質問15と質問16については学科平均値は超えているものの、それぞれに改善が必要である。
 質問15については、グループワークを中心に授業展開をしているにもかかわらず、グループ代表者など個人の負担が多い場合があったことが低評価につながったと考えられる。
 質問16については、複数の少人数グループを相手にしながら授業展開していることから一人ひとりへの配慮が欠ける場面があったと予想される。

(3) 次年度に向けての取り組み

グループを形成し、グループ単位で課題に取り組み発表する流れの授業展開であることから、グループで作業を進める上で特定される個人へ過度な負担がかからないように努める。
 また、グループ単位での指導に陥らないように、受講生一人ひとりへの目配りと声かけに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		アダプテッド・スポーツ論	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

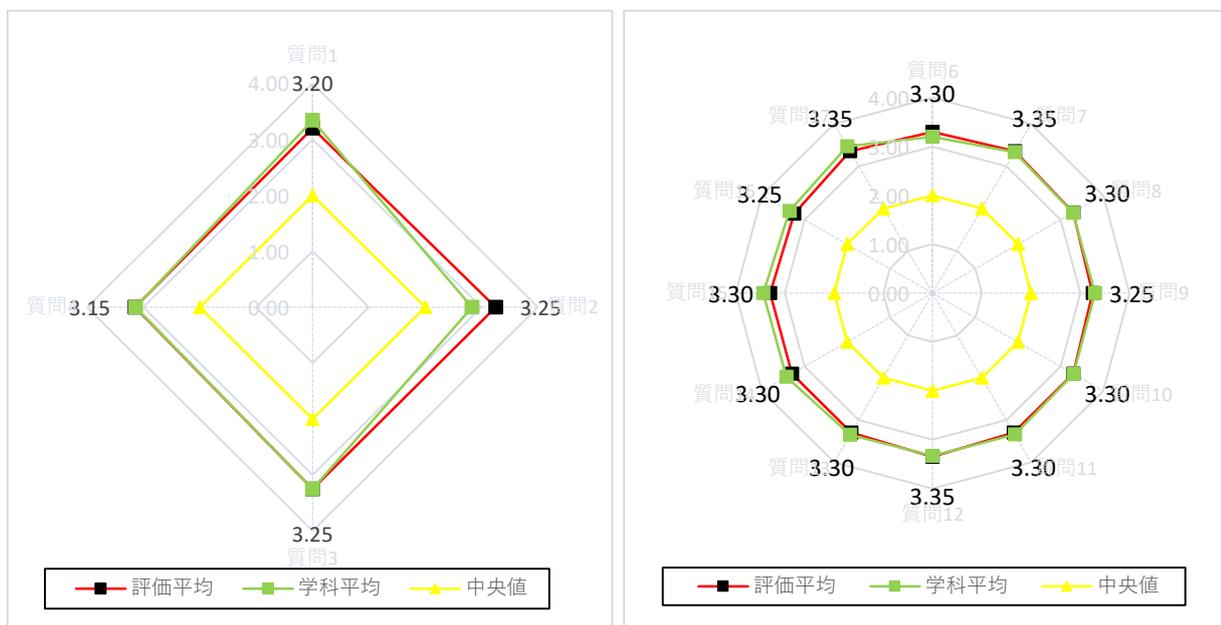
43名中、41名から回答を得た。
 学生自身、特に質問4による「自らの工夫」に関する評価が若干低い値を示している。
 授業に関する設問は概ね平均的な評価を得ている。その中で、質問14の値が他の質問より低評価であることから内容改善が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身の授業に対する意欲を高めるため、グループワークの導入など受講生が主体となる授業内容への工夫・改善が必要である。
 また、リアクションペーパーの使用頻度を高め学生からの意見を確認することが必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法 I	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

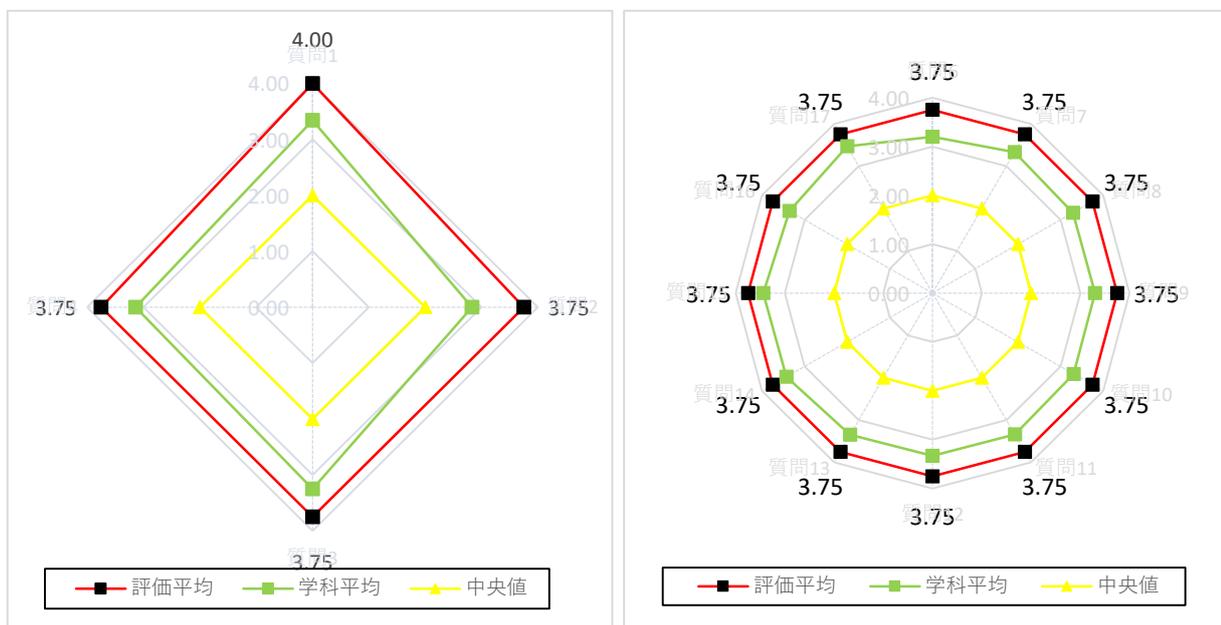
学生のシラバス活用以外は学科平均と同様で3.0~3.5の間を推移している。
 教員の授業評価については全ての事項で3.5弱で推移し、学科平均と同様である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も講義内容、方法とも同様に進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法Ⅱ	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

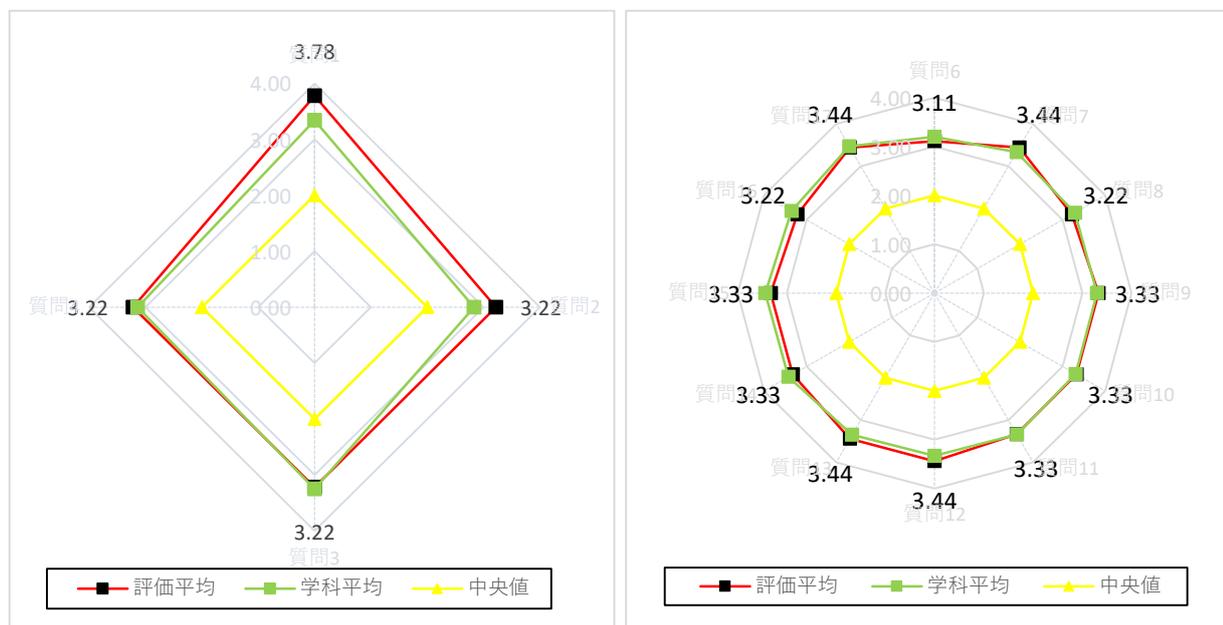
学生の出席状況は4.0、他の3項目については4.0弱であり、学科平均を上回っている。
 教員の講義に対する評価については全ての事項で4.0弱を推移しており、学科平均を上回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も講義内容・方法とも継続して行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法Ⅲ	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

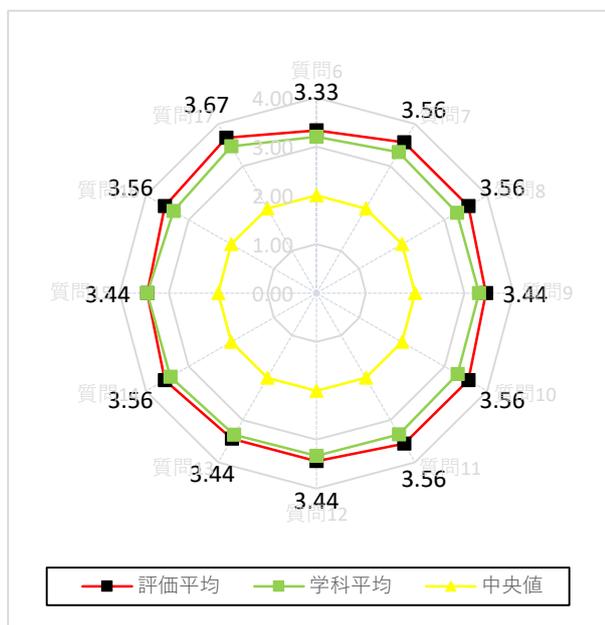
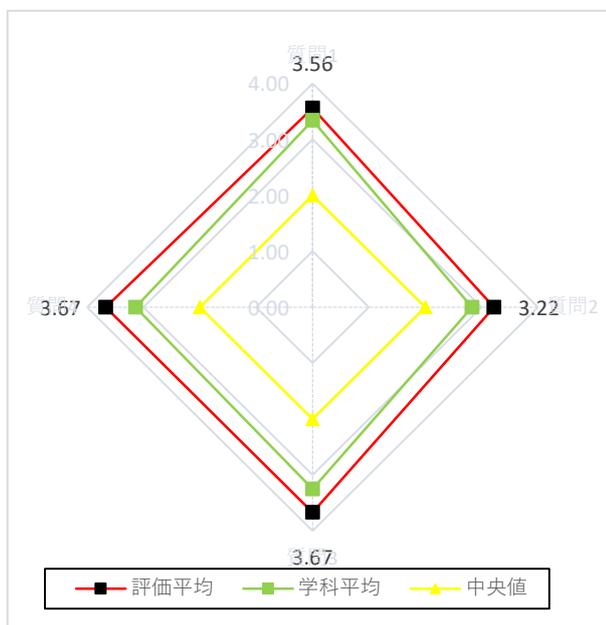
学生の出席状況（4.0弱）、シラバス活用（3.5弱）は学科平均を上回っている。授業態度、自分での工夫は学科平均と同程度（3.25）である。教員の講義への評価は全ての事項で3.0～3.5の間を推移しており、学科平均とほぼ同様であるが、シラバスの説明が学科平均下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はシラバス説明を入念に行う。
講義の内容・方法については継続して行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		教育実習	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業は学外の実習であり、指導を実習先に委ねているものですので、「結果の分析と評価」をするには適さないものだと考えております。

(3) 次年度に向けての取り組み

教育実習先で指摘された項目については、「事前指導」で改善できるようにいたします。